聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA121103
旧約聖書学演習Ⅱａ	矢田　洋子	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
旧約聖書学の基本文献をじっくり読み、旧約学の基本知識を身に着ける。

＜到達目標＞
旧約聖書の人間論について基本的な考え方を身につける。

＜授業の概要＞
H. W. ヴォルフ『旧約聖書の人間論』およびH. W. ロビンソン『旧約聖書における集団と個』を読み、その内容をめぐって議論する。

＜履修条件＞
ヘブライ語の知識はなくてもよい。旧約専攻以外の方々の履修を期待する。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　ヴォルフ第１章　nepes―困窮した人間　p.33-p.66
第３回　ヴォルフ第 2～3 章　basar―衰弱した人間、ruah―強められた人間　p.67-p.94
第４回　ヴォルフ第 4 章　leb(ab)―分別ある人間　p.95-p.133
第５回　ヴォルフ第 5～8 章　肉体の生命、肉体の内部、肉体の形姿、人間の本質　p.134-p.172
第６回　ヴォルフ第 9～10 章　旧約聖書の時間概念、創造と誕生　p.175-p.203
第７回　ヴォルフ第 11 章　生と死　p.204-p.242
第８回　ヴォルフ第 12～14 章　若いことと年老いること、目ざめていることと労働、眠りと休息、p.243-288
第９回　ヴォルフ第 15～16 章　病気と癒し、人間の希望　p.289-p.314
第１０回　ヴォルフ第 17～19 章　神の像―世界の管理者、夫と妻、両親と子どもたち　p.317-p.364
第１１回　ヴォルフ第 20～22 章　兄弟、友人、敵、主人と奴隷、知者と愚か者　p.365-p.415
第１２回　ヴォルフ第 23～24 章　個人と共同体、人間の定め　pp.417-p.445
第１３回　ロビンソン「ヘブルの集合人格概念」「イスラエルにおける集団と個」pp.15-81
第１４回　ロビンソン「旧約聖書神学」pp.85-166
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
発表者以外も、毎回、あらかじめテキストを読んで授業にのぞむこと。

＜テキスト＞
H. W. ヴォルフ『旧約聖書の人間論』大串元亮訳、日本基督教団出版局、1983 年
H. W. ロビンソン『旧約聖書における集団と個』船水衛司訳、《聖書の研究》シリーズ、教文館、1972 年

＜参考書・参考資料等＞
ヒブル語聖書 Biblia Hebraica Stuttgartensia、ヒブル語辞書（Holladay, BDB など）、Theological Dictionary of the Old Testament の各項目、W. ブルッゲマン『旧約聖書神学用語辞典　響き合う信仰』小友聡、左近豊監訳、日本キリスト教団出版局、2014 年。A. ベルレユング、C. フレーフェル編『旧約新約聖書神学事典』山吉智久訳、教文館、2016 年。東京神学大学神学会編『旧約聖書神学事典』教文館、1983 年。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表の内容、及び、提出していただくレポートによって評価する。共通評価指標（1）を用いる。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
レポートにはコメントを付して返却する。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA121104
旧約聖書学演習Ⅱｂ	矢田　洋子	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
ヘブライ語の単語に注目して旧約聖書を読む。コンコーダンスと旧約神学用語辞典の利用。

＜到達目標＞
ヘブライ語のコンコーダンスを使えるようになる。旧約神学用語辞典を読みこなす。それらを通して、ヘブライ語を履修していない人、聖書神学専攻でない人でも、「ヘブライ語的に」旧約聖書が読めるようになることを目指す。

＜授業の概要＞
人間とその状況を表すヘブライ語に注目することによって、旧約聖書の時間概念を究明する。旧約聖書神学の基本的な概念について、ヘブライ語に注目し、具体的に聖書箇所に当たることによって究明する。毎回、参加者に神学用語辞典とコンコーダンスに基づいた発表をしていただく。

＜履修条件＞
ヘブライ語の知識があらかじめある必要はないが、コンコーダンスや神学用語辞典を利用できる程度にはヘブライ語アルファベットの識別などを身に着けていただくことになります。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション　　例）אהב（愛）
第２回　נפשׁ（命、魂）
第３回　חי（命）、חיה（生きる）
第４回　בשׂר（肉、体）
第５回　רוּח（霊）　נשׁמה（息）
第６回　לב（心）
第７回　משׁפט（裁き）
第８回　חטא（罪）
第９回　ברית（契約）　חסד（愛／忠実）
第１０回　אדם（人間、アダム）　איׁש（人、男）　אשׁה（女）　רע（隣人）
第１１回　גאל（贖い）　פדה（贖い）
第１２回　שׁוב（悔い改め）　נחם（悔い改め）
第１３回　ישׁע（救い）
第１４回　קהל（会衆）　עדה（会衆）　עם（民）
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
発表準備に加えて、毎回、あらかじめ取り上げる単語に注目して聖書を読んでおくこと。

＜テキスト＞
Biblia Hebraica Stuttgartensia

＜参考書・参考資料等＞
Theological Dictionary of the Old Testament の各項目；G.Lisowsky, *Konkordanz zum Hebräischen Alten Testament*,
その他の参考文献はそのつど指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表の内容、及び、提出していただくレポートによって評価する。共通評価指標（1）を用いる。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
レポートにはコメントを付して返却する。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA123101
旧約聖書原典講読Ⅰａ	左近　豊	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
旧約聖書ヒブル語本文を批判的手続きを経ながら読むことを主眼とする。

＜到達目標＞
学生がテキストの文献学的諸問題、そして文芸学的特徴を把握することができるようになる。

＜授業の概要＞
エレミヤ書と哀歌を取り上げる。それぞれに旧約の民の歩みの重要な局面で語られた言葉であり、旧約聖書の人間観、世界観、そして歴史観を反映している。写本、古代訳を参照しつつヒブル語本文を読み、教会での説教、聖書研究における釈義に資する諸資料の紹介と活用の実際を学ぶ。

＜履修条件＞
ヒブル語文法履修者

＜授業計画＞
第１回：エレミヤ書　序　1:1-3
第２回：エレミヤ書　1:4-8
第３回：エレミヤ書　1:9-10
第４回：エレミヤ書　1:11-13
第５回：エレミヤ書　1:14-16
第６回：エレミヤ書　1:17-19
第７回：エレミヤ書　2:1-3
第８回：エレミヤ書　2:4-6
第９回：エレミヤ書　2:7-9
第 10 回：エレミヤ書 2:10-13
第 11 回：エレミヤ書 2:14-16
第 12 回：哀歌 1:3~5
第 13 回：哀歌 1:6~7
第 14 回：哀歌 1:8~11
第 15 回：総括

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
事前に当該箇所の釈義上の諸問題を把握し、神学的思索を携えて授業に臨むことが望ましい。

＜テキスト＞
Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)は学生各自で購入すること。

＜参考書・参考資料等＞ 以下については適宜担当者が指示、もしくは用意する。
辞書:F.Brown, S.R.Driver, and C.A.Briggs eds., *Hebrew and English Lexicon of the Old Testament*. (BDB)、L. Koehler and W.Baumgartner, *The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament (HALOT)*、
文法書:*Gesenius' Hebrew Grammar*、B.Waltke and M.O'Connor, *An Introduction to Biblical Hebrew Syntax*, H.Bauer and P.Leander, *Historische Grammatik der hebraeischen Sprache*.
参考書:ヴュルトヴァイン著『旧約聖書の本文研究』、E.Tov, *Textual Criticism of the Hebrew Bible*、『左近淑著作集 III』、Field, *Origenis Hexapla* コンコルダンス:Lisowsky, *Konkordanz zum Hebraeischen Alten Testament*、S.Mandelkern, *Veteris Testamenti concordantiae hebraicae atque chaldaicae*、E.Hatch and H.A.Redpath, *A Concordance to the Septuagint and the other Greek Versions of the Old Testament*（LXX）など

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業参加　60%　　期末レポート 40%　　評価にあたっては共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
授業ごとの担当箇所の文献学的考察の発表に対して、本文批評的手続き、釈義における注意点、翻訳の的確さ等について授業の中で、適宜コメントおよび解説をする。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA123102
旧約聖書原典講読Ｉｂ	宮嵜　薫	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
創世記４１章～４２章（前半）のヘブライ語原典（マソラ本文）を読む。

＜到達目標＞
辞書を用い、ヘブライ語本文の語分析、構文批判等により、テキストを正確に音読でき、文章の意味を深く理解することができる。BHS の脚注記（アパラータス）およびマソラが解読できる。

＜授業の概要＞
創世記「ヨセフ物語」の４１章から４２章（１３節まで）を１節ずつ読む。辞書（BDB）を用い原語を丁寧に分析し、翻訳をする。歴史的背景を考慮しつつ、資料説、伝承史等を検討し、文学的特徴や手法、および神学的メッセージを探る。「ヨセフ物語」が書かれた目的や旧約全体における位置づけと意義についても考察したい。

＜履修条件＞
ヘブライ語の基礎文法修得者。旧約専攻でなくともよい。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　創世記　４１：1−4　ファラオ、夢を見る
第３回　創世記　４１：5−8　ファラオ、再び夢を見る
第４回　創世記　４１：9−１３　献酌官長の申し出
第５回　創世記　４１：１４−１６　ファラオ、ヨセフを呼ぶ
第６回　創世記　４１：１７−２１　ファラオ、第一の夢をヨセフに語る
第７回　創世記　４１：２２−２４　ファラオ、第二の夢をヨセフに語る
第８回　創世記　４１：２５−２９　ヨセフ、ファラオの夢を解き明かす
第９回　創世記　４１：３０−３５　ヨセフ、ファラオに提言する
第１０回　創世記　４１：３６−４２　ヨセフ、高位を与えられる
第１１回　創世記　４１：４３−４９　ヨセフのエジプトでの采配
第１２回　創世記　４１：５０−５５　ヨセフに二人の息子が生まれる
第１３回　創世記　４１：５６−５７、４２：1−2　世界中に飢饉が起こる
第１４回　創世記　４２：3−7　ヨセフの兄たち、エジプトを訪れる
第１５回　創世記　４２：8−１３　ヨセフ、兄たちに謁見する

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
該当箇所の予習は、各自ノートに書いて準備した上で、授業に臨むこと。

＜テキスト＞
聖書：Biblia Hebraica Stuttgartensia（BHS）、新共同訳、聖書協会共同訳等の諸翻訳。各自購入する。

＜参考書・参考資料等＞
辞書： *The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon (BDB)* ；文法書：左近義慈／本間敏雄『ヒブル語入門』［改訂増補版］教文館、2011 年。以上は各自購入。参考書：小林洋一編訳『BHS のマフテアハ』ヨルダン社、1999 年；E.ヴュルトヴァイン『旧約聖書の本文研究』鍋谷／本間共訳、日本キリスト教団出版局、2007 年。以上は図書館蔵書を利用する（教員が授業の中で都度指示する）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業参加度、予習状況と課題発表、レポートにより総合的に評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
学生に課した節の分析・訳については授業内で十分に検討を行う。提出されたレポートはコメントを付して返却する。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA125103
シリア語ａ	佐藤　泉	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞通年で履修するのが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
聖書の古代訳の一つにペシッタ（シリア語訳）がある。ペシッタを読むためのシリア語文法の基礎を学ぶ。

＜到達目標＞
①シリア語文法の基礎を身につける。②身につけたシリア語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、ペシッタを読むことができるようになる。

＜授業の概要＞
練習問題に取り組むながら、ペシッタを読むために必要なシリア語文法を学ぶ。

＜履修条件＞
ヒブル語履修済みであることが望ましい。

＜授業計画＞

第１回：序　シリア語を学ぶ意義等を話し、子音について（１）　ヤコブ派の書体を学ぶ。

第２回：子音について（２）　ネストリウス派とエストラングラの書体を学ぶ。

第３回：母音について　ヤコブ派とネストリウス派の母音記号を学ぶ。

第４回：代名詞について　人称・指示・疑問・関係代名詞を学ぶ。

第５回：前置詞について　基本的なものをいくつか学ぶ。

第６回：名詞について（１）　基本的な名詞について、ヘブライ語との比較をしつつ、その特徴を学ぶ。

第７回：代名詞語尾について　ヘブライ語と同様にシリア語も名詞等に代名詞語尾がつくことを学ぶ。

第８回：名詞について（２）　母音の移動を伴うものを学ぶ。

第９回：名詞について（３）　不規則変化するものを学ぶ。

第 10 回：規則動詞について（１）　Peal 形の変化、特に完了を学ぶ。

第 11 回：規則動詞について（２）　Peal 形の変化、特に未完了・命令・分詞・不定詞を学ぶ。

第 12 回：規則動詞について（３）　Ethpeel 形の変化を学ぶ。

第 13 回：規則動詞について（４）　Pael 形と Ethpael 形の変化を学ぶ。

第 14 回：規則動詞について（５）　Aphel 形と Ettaphal 形の変化を学ぶ。

第 15 回：規則動詞について（６）　代名詞語尾のついた形の変化を学ぶ。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。

＜テキスト＞
Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar,3rd.ed.,Oxford University Press, London, 1949.（教務課で各自購入する。）

＜参考書・参考資料等＞
William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.
Takamitsu Muraoka , Classical Syriac for Hebraists, Wiesbaden：O. Harrassowitz , 1987

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。評価にあたっては、「共通評価指標（1)」の①～④の内容を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
練習問題等の発表後には授業の中で解説等をする。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA123104
シリア語ｂ	佐藤　泉	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞通年で履修するのが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
聖書の古代訳の一つにペシッタ（シリア語訳）がある。ペシッタを読むためのシリア語文法の基礎を学ぶ。

＜到達目標＞
①シリア語文法の基礎を身につける。②身につけたシリア語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、ペシッタを読むことができるようになる。

＜授業の概要＞
シリア語文法の学びを継続する。その後に講読に入るが、まず新約からマタイによる福音書の「山上の説教」、さらに旧約からエレミヤ書等をペシッタで読む。（箇所は未定。授業中に指示する。）

＜履修条件＞
ヒブル語履修済みであること。シリア語 a 履修済みであること。

＜授業計画＞

第１回：不規則動詞について（１）　Pê Nûn 動詞の変化を学ぶ。
第２回：不規則動詞について（２）　Lāmed 喉音動詞の変化を学ぶ。
第３回：不規則動詞について（３）　Pê ’ālep 動詞の変化を学ぶ。
第４回：不規則動詞について（４）　Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。
第５回：不規則動詞について（５）　二根字動詞の変化を学ぶ。
第６回：不規則動詞について（６）　二重‘ayin 動詞の変化を学ぶ。
第７回：不規則動詞について（７）　Lāmed ’ālep・Lāmed Yôd 動詞の変化を学ぶ。
第８回：「山上の説教」の講読（１）　Jennings の辞書を引きながら、ペシッタを読むことに慣れる。
第９回：「山上の説教」の講読（２）　原典との比較をしつつ読むことを味わう。
第 10 回：「山上の説教」の講読（３）　シリア語文法、特に不規則変化する名詞を確認しつつ読む。
第 11 回：「山上の説教」の講読（４）　シリア語文法、特に動詞の変化を確認しつつ読む。
第 12 回：「山上の説教」の講読（５）　シリア語が解釈に影響を与えている一例について話す。
第 13 回：エレミヤ書等の講読（１）　ネストリウス派の書体・母音記号で読むことに慣れる。
第 14 回：エレミヤ書等の講読（２）　シリア語文法を全体的に思い出しつつ読む。
第 15 回：エレミヤ書等の講読（３）　原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。

＜テキスト＞
Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar,3rd.ed.,Oxford University Press, London, 1949. （教務課で各自購入する。）

＜参考書・参考資料等＞
William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.
Takamitsu Muraoka , Classical Syriac for Hebraists, Wiesbaden：O. Harrassowitz , 1987.
J. Payne Smith , A compendious Syriac dictionary：founded upon the Thesaurus Syriacus of R. Payne Smith, Winona Lake, Ind.：Eisenbrauns , 1998.

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。評価にあたっては、「共通評価指標（1)」の①～④の内容を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
練習問題等の発表後には授業の中で解説等をする。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA130103
旧約聖書学特研Ⅱａ	田中　光	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
詩編の解釈

＜到達目標＞
詩編の言葉を原典や諸翻訳（古代語訳含む）によって丁寧に読み、その神学的メッセージを理解すること。

＜授業の概要＞
各詩編を次のようなプロセスで読解していく。①詩編のヘブライ語原典の内容を精読し、本文批評的問題を BHS のアパラタスその他によって確認する。②注解書その他によりながら、詩編の類型、歴史的背景、解釈の歴史、神学的メッセージなどについて討論する。

＜履修条件＞
ヒブル語の講義を受講して基礎文法を習得していることが望ましい。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション＆イントロダクション
第２回　詩編概説
第３回　詩編 19 編①:　ヒブル語テクストの講読（前半）
第４回　詩編 19 編②　ヒブル語テクストの講読（後半）＋本文批評的考察
第５回　詩編 19 編③　解釈に関するディスカッション
第６回　詩編 20 編①　ヒブル語テクストの講読（前半）
第７回　詩編 20 編②　ヒブル語テクストの講読（後半）＋本文批評的考察
第８回　詩編 20 編③　解釈に関するディスカッション
第９回　詩編 21 編①　ヒブル語テクストの講読（前半）
第１０回　詩編 21 編②　ヒブル語テクストの講読（後半）＋本文批評的考察
第１１回　詩編 21 編③　解釈に関するディスカッション
第１２回　詩編 22 編①　ヒブル語テクストの講読（前半）
第１３回　詩編 22 編②　ヒブル語テクストの講読（後半）＋本文批評的考察
第１４回　詩編 22 編③　解釈に関するディスカッション
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
事前に指示された予習（ヒブル語テクストの読解や参考書の読解）をきちんと行って授業にのぞむこと。

＜テキスト＞
特に定めない。

＜参考書・参考資料等＞
初回授業において指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
各授業における予習・参加の度合いと、期末のペーパー（4000 字程度）によって評価する。評価は「共通評価指標」（１）に基づいて行う。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
授業における質問・意見へのコメント、及び期末ペーパーへのコメントによってフィードバックする。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MA130104
旧約聖書学特研Ⅱｂ	田中　光	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
終末論と黙示思想

＜到達目標＞
旧約聖書や第二神殿時代の終末論的・黙示的諸文書を読んでそれらの神学的内容を把握し、かつ、それらが新約聖書に見られる終末論・黙示思想と深い関わりを持っていることを理解すること。

＜授業の概要＞
まずは旧約聖書に見られる終末論から考察を開始し、その後、外典文書、そして死海文書へと考察を広げる。学生は、指示された一次資料をよく読み、場合によっては二次資料も参照して、授業におけるディスカッションに参加することが求められる。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
第１回　オリエンテーション&イントロダクション
第２回　終末論と黙示思想概説
第３回　イザヤ書:　概説とテクストに関するディスカッション（主に 24-27 章）
第４回　エゼキエル書:　概説とテクストに関するディスカッション（主に 40-47 章）
第５回　ゼカリヤ書:　概説とテクストに関するディスカッション（主に 9-14 章）
第６回　ダニエル書:　概説とテクストに関するディスカッション（主に 7 章 1-14 節; 12 章 1-4 節）
第７回　第一エノク書①:　概説とテクスト（前半）に関するディスカッション
第８回　第一エノク書②:　テクスト（後半）に関するディスカッション
第９回　死海文書概説
第１０回　共同体の規則に関する文書（1QS 他）①:　概説とテクスト（前半）に関するディスカッション
第１１回　共同体の規則に関する文書（1QS 他）②:　テクスト（後半）に関するディスカッション
第１２回　ダマスコ文書（CD 他）①:　概説とテクスト（前半）に関するディスカッション
第１３回　ダマスコ文書（CD 他）②:　テクスト（後半）に関するディスカッション
第１４回　戦い文書（1QM 他）①:　概説とテクスト（前半）に関するディスカッション
第１５回　戦い文書（1QM 他）②:　テクスト（後半）に関するディスカッション＋授業全体のまとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
学生は次の授業で読み合せる一次資料や二次資料を良く読んで、授業に参加すること。

＜テキスト＞
特に定めない。

＜参考書・参考資料等＞
日本聖書学研究所編『聖書外典偽典 4　旧約偽典 II』教文館、2020 年（オンデマンド版）；松田伊作・月本昭男・上村静訳『死海文書Ⅰ　共同体の規定・終末規定』ぷねうま舎、2020 年;　その他、初回授業にて紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業におけるディスカッションと期末のレポート（4000 字程度）によって評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
ディスカッションで出た質問・意見に対するコメント、そして期末レポートへのコメントによってフィードバックする。評価は「共通評価指標」（１）に基づいて行う。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA222101
新約聖書原典釈義Ｉａ	遠藤　勝信	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞通年（a，b）の登録が望ましい。	

教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている。

＜授業のテーマ＞
ヨハネによる福音書３：３１～４：３８の原典釈義。ギリシア語新約聖書のテクストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学ぶ。

＜到達目標＞
学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テクストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。

＜授業の概要＞
はじめに近年のヨハネ福音書研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。

＜履修条件＞
新約ギリシャ語原典テクスト読解力を有すること。ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい。

＜授業計画＞

I. 講義を中心に

第０１回　研究史を概観し、近年の研究情況と釈義の諸問題を学ぶ。
第０２回　ギリシャ語新約聖書本文批評の実際。
第０３回　テクストの文学批評の実際。
第０４回　テクストと歴史批評の実際。
第０５回　ヨハネ１～３章の概要

II. 演習（参加者による釈義の発表とディスカッション）を中心に

第０６回　ヨハネ０３：３１～３６の原典釈義（その１：文法と文脈）
第０７回　ヨハネ０３：３１～３６の原典釈義（その２：釈義と解釈）
第０８回　ヨハネ０４：０１～１０の原典釈義（その１：文法と文脈）
第０９回　ヨハネ０４：０１～１０の原典釈義（その２：釈義と解釈）
第１０回　ヨハネ０４：１１～１９の原典釈義（その１：文法と文脈）
第１１回　ヨハネ０４：１１～１９の原典釈義（その２：釈義と解釈）
第１２回　ヨハネ０４：２０～３０の原典釈義（その１：文法と文脈）
第１３回　ヨハネ０４：２０～３０の原典釈義（その２：釈義と解釈）
第１４回　ヨハネ０４：３１～３８の原典釈義（その１：文法と文脈）
第１５回　ヨハネ０４：３１～３８の原典釈義（その２：釈義と解釈）

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
クラスで取り上げる新約聖書テクストをギリシア語文法に則して読み、準備してクラスに出席すること。

＜テキスト＞
Nestle-Aland (28th ed., 2012), *Novum Testamentum Graece*　各自で購入のこと。

＜参考書・参考資料等＞
R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005 年
R・A・カルペッパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005 年
R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011 年
C.S. Keener, *The Gospel of John- A Commentary vol.1*, 2003.
J. Ramsey Michaels, *The Gospel of John*, 2010.

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業における発表と期末試験（釈義ペーパー [6,000～8,000 文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテクストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。レポートは共通評価指標（1）によって評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
学生には釈義の発表を求め、教員はそれに対し批評とともにアドバイスを与える。学生はそのアドバイスに基づいて釈義を見直し、最終的に釈義レポートを完成させることを通して学習のフィードバックを行う。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA222102
新約聖書原典釈義Ｉｂ	遠藤　勝信	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞通年（a，b）の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている。

＜授業のテーマ＞
ヨハネの黙示録１２：１３～１４：１３までの原典釈義。ギリシア語新約聖書のテクストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学ぶ。

＜到達目標＞
学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テクストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。

＜授業の概要＞
はじめに近年のヨハネ黙示録研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。

＜履修条件＞
新約ギリシャ語原典テクスト読解力を有すること。ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい。

＜授業計画＞

I. 講義を中心に

第０１回　イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。
第０２回　黙示録を読む前に（その１）：黙示録の周辺、背景理解。
第０３回　黙示録を読む前に（その２）：構造と構成、神学。
第０４回　黙示録を読む前に（その３）：他。
第０５回　黙示録１章～１２章１２節までを概観し、釈義の営みにおける課題と観点を確認する。

II. 演習（参加者による発表とディスカッション）を中心に

第０６回　黙示録１２：１３　～１８　の原典釈義（その１：文法と文脈）
第０７回　黙示録１２：１３　～１８　の原典釈義（その２：釈義と解釈）
第０８回　黙示録１３：０１　～１０　の原典釈義（その１：文法と文脈）
第０９回　黙示録１３：０１　～１０　の原典釈義（その２：釈義と解釈）
第１０回　黙示録１３：１１　～１８　の原典釈義（その１：文法と文脈）
第１１回　黙示録１３：１１　～１８　の原典釈義（その２：釈義と解釈）
第１２回　黙示録１４：０１　～０７　の原典釈義（その１：文法と文脈）
第１３回　黙示録１４：０１　～０７　の原典釈義（その２：釈義と解釈）
第１４回　黙示録１４：０８　～１３　の原典釈義（その１：文法と文脈）
第１５回　黙示録１４：０８　～１３　の原典釈義（その２：釈義と解釈）

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
クラスで取り上げる箇所のギリシア語テクストを十分読み、準備してクラスに出席すること。

＜テキスト＞
Nestle-Aland (28th ed., 2012), *Novum Testamentum Graece*　　各自で購入のこと。

＜参考書・参考資料等＞
佐竹明著『ヨハネの黙示録』（上・下巻）2009 年
R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001 年
R. Bauckham, *The Climax of Prophecy,* 1993.
G. Beale, *The Book of Revelation* (NIGTC), 1999.
D. Aune, *Revelation 6-16* (WBC), 1997.
G. R. Osborne, *Revelation*, 2002.

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業における発表と期末試験（釈義ペーパー [6,000～8,000 文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテクストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。レポートは共通評価指標（1）によって評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
学生には釈義の発表を求め、教員はそれに対し批評とともにアドバイスを与える。学生はそのアドバイスに基づいて釈義を見直し、最終的に釈義レポートを完成させることを通して学習のフィードバックを行う。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA222103
新約聖書原典釈義Ⅱａ	三永　旨従	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
山上の説教を中心にマタイによる福音書の中心的メッセージを模索していきます。

＜到達目標＞
原典で新約聖書を読む力をつけると共に、マタイの神学的特徴を踏まえた上でマタイの教会論を論じることができるようになることを目指します。

＜授業の概要＞
特に、旧約聖書並びにユダヤ教との関連を重視しつつ、山上の垂訓の原典の正確な講読を通して、その構造、中心的テーマを探っていきます。

＜履修条件＞
ギリシャ語１、２を修得済みの者。（聴講生も歓迎します。）

＜授業計画＞

第１回　「嵐を鎮める奇跡」、「十字架」の箇所から見られるマタイの神学的特徴
第２回　「ペテロの信仰告白」の箇所の神学的特徴とマタイ的教会論
第３回　マタイ 5：1～16 の釈義　「幸い」とは何か
第４回　マタイ 5：17～26 の釈義　「律法と義」に関する問題
第５回　マタイ 5：27～48 の釈義　「禁止命令」について
第６回　マタイ 5 章の中心的用語の検討
第７回　マタイ 6：1～18 の釈義　「施し、祈り、断食」について
第８回　マタイ 6：19～24 の釈義　「富」に関して
第９回　マタイ 6：25～34 の釈義　「思い悩むな」について
第１０回　マタイ 6 章の中心的用語の検討
第１１回　マタイ 7：1～12 章の釈義　「求めなさい」について
第１２回　マタイ 7：13～23 の釈義　「狭い門」とは
第１３回　マタイ 7：24～28 の釈義　「家と土台」について
第１４回　マタイ 7 章の中心的用語の検討
第１５回　マタイ 5～7 章の構造に関する検討

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
学生各自が互いに共同し、協力しあってテキストの読みと神学的検討をしてください。

＜テキスト＞
・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27 版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介します。）
・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers”W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧めます。）

＜参考書・参考資料等＞
LXX（70 人訳ギリシャ語旧約聖書）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
テキストへの積極的かつ、考察的取り組みを通して、マタイに対する理解を深められたかが、評価の基準となります。「共通評価指標（1）」によって評価します。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
試験ではなく、学生各自が個別のテーマについて発表する課題について、フィードバックという形で授業で話し合い、教師がそれらについてコメントするという形態をとります。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA222104
新約聖書原典釈義Ⅱｂ	三永　旨従	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
山上の説教を中心にマタイによる福音書の神学、特にその教会論を検討する

＜到達目標＞
新約聖書原典釈義Ⅱａの継続として原点の読みに基づいたマタイの教会論に迫る

＜授業の概要＞
新約聖書原典釈義Ⅱａで検討したマタイの特徴をのまとめ、及び旧約との関連を考察する

＜履修条件＞
「新約聖書原典釈義Ⅱａ」を履修ずみであること

＜授業計画＞

第１回　マタイ 5～7 章の構造についての継続議論
第２回　マタイ 5～7 章全般に見られる特徴的用語の検討
第３回　マタイ 5～7 章全般に見られる「天」と「地」についての考察
第４回　マタイが独自に用いる「天国」と「地」との関連について
第５回　主の祈りの中心テーマ
第６回　「偽善」との戦いについての検討
第７回　マタイが独自に用いる「地名」と「地」との関連について
第８回　マタイ 5～7 章全般に見られる「天」と「地」についての考察
第９回　マタイが独自に用いる「地名」と「地」との関連について
第１０回　旧約のイザヤ書との関連
第１１回　『インマヌエル・キリスト論』について
第１２回　旧約のヨシュア記との関連について　1
第１３回　旧約のヨシュア記との関連について　2
第１４回　マタイ 5～7 章の中心をなすテーマについての考察　1
第１５回　マタイ 5～7 章の中心をなすテーマについての考察　2

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
新約聖書原典釈義Ⅱａを参照

＜テキスト＞
・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27 版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介します。）
・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers”W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧めます。）

＜参考書・参考資料等＞
LXX（70 人訳ギリシャ語旧約聖書）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
テキストへの積極的かつ、考察的取り組みを通して、マタイに対する理解を深められたかが、評価の基準となります。「共通評価指標（1）」によって評価します。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
試験ではなく、学生各自が個別のテーマについて発表する課題について、フィードバックという形で授業で話し合い、教師がそれらについてコメントするという形態をとります。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA230101
新約聖書学特研Ｉａ	河野　克也	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
パウロの思想を多様な第二神殿ユダヤ教の中に位置づけ、立体的に理解する。

＜到達目標＞
パウロの思想を理解する背景として、第二神殿ユダヤ教（初期ユダヤ教）について全体像を把握することを目指す。

＜授業の概要＞
John J. Collins and Daniel C. Harlow (eds.), *Early Judaism: A Comprehensive Overview* (Grand Rapids: Eerdmans, 2012) の各章を通して、第二神殿ユダヤ教の概要を学ぶ。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション、第１章「現代の研究史における初期ユダヤ教」
第２回　第２章「アレクサンドロスからハドリアヌスまでのユダヤ史」
第３回　第３章「イスラエルの地におけるユダヤ教」
第４回　第４章「ディアスポラにおけるユダヤ教」
第５回　第５章「ユダヤ聖典：テクスト、版、正典」
第６回　第６章「初期ユダヤ教の聖書解釈」
第７回　第７章「外典および偽典」
第８回　第８章「死海写本」
第９回　第９章「ギリシア語で書かれた初期ユダヤ教文献」
第１０回　第10章「フィロン」
第１１回　第11章「ヨセフス」
第１２回　第12章「考古学、パピルス、および碑文」
第１３回　第13章「ギリシア人およびローマ人のただ中のユダヤ人」
第１４回　第14章「初期ユダヤ教と初期キリスト教」
第１５回　第15章「初期ユダヤ教とラビ・ユダヤ教」、まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。
各自、事前に日本語私訳で各章を読み、ディスカッションに参加できるように準備すること。

＜テキスト＞
John J. Collins and Daniel C. Harlow (eds.), *Early Judaism: A Comprehensive Overview* (Grand Rapids: Eerdmans, 2012).
日本語は河野私訳を提供する。

＜参考書・参考資料等＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席が2/3に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業への積極的な参加と期末レポートにより評価する。レポートは4,000字以上とする。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントを付して返却する。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA230102
新約聖書学特研Ｉｂ	河野　克也	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
パウロの思想を多様な第二神殿ユダヤ教の中に位置づけ、立体的に理解する。

＜到達目標＞
パウロ研究の「新しい視点」の意義について、第二神殿ユダヤ教（初期ユダヤ教）の背景から理解するとともに、「新しい視点」への批判についても理解を深めることを目指す。

＜授業の概要＞
「新しい視点」の嚆矢となったＥ・Ｐ・サンダース『パウロとパレスチナ・ユダヤ教』におけるパレスチナ・ユダヤ教の定義「契約遵法主義」と、それに対するさまざまな批判・反論を検討する。特に、Scot McKnight and B. J. Oropeza (eds.), *Perspectives on Paul: Five Views* (Grand Rapids: Baker, 2020) を題材に、競合する５つの「視点」の議論を批判的に検討する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション：*Perspectives on Paul*, “Paul in Perspective” (pp. 1-23).
第２回　サンダース以前の状況：Ｋ・ステンダールとＥ・ケーゼマンの論争
第３回　サンダース『パウロとパレスチナ・ユダヤ教』の意義
第４回　サンダースへの批判：「諸ユダヤ教」、「ラディカルな視点」、「功績神学」
第５回　第１章「ローマ・カトリックの視点」(pp. 25-55)
第６回　第１章「ローマ・カトリックの視点」への応答と再応答（pp. 56-82)
第７回　第２章「伝統的プロテスタントの視点」(pp. 83-106)
第８回　第２章「伝統的プロテスタントの視点」への応答と再応答（pp. 107-32)
第９回　第３章「新しい視点」(pp. 133-45)
第１０回　第３章「新しい視点」への応答と再応答（pp. 146-70)
第１１回　第４章「ユダヤ教内のパウロの視点」(pp. 171-93)
第１２回　第４章「ユダヤ教内のパウロの視点」への応答と再応答（pp. 194-218)
第１３回　第５章「恵みの視点」(pp. 219-36)
第１４回　第５章「恵みの視点」への応答と再応答（pp. 237-58)
第１５回　あとがき（pp. 259-66)、まとめ

＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
各回の課題図書を事前に読み、ディスカッションに参加できるように準備すること。

＜テキスト＞
Scot McKnight and B. J. Oropeza (eds.), *Perspectives on Paul: Five Views* (Grand Rapids: Baker, 2020).　学生各自が用意する。

＜参考書・参考資料等＞
山口希生『ユダヤ人も異邦人もなく：パウロ研究の新潮流』(新教出版社、2023 年)。その他、授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席が 2/3 に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業への積極的な参加と期末レポートにより評価する。レポートは 4,000 字以上とする。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントを付して返却する。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA230103
新約聖書学特研Ⅱａ	山口　希生	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞ 通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
共観福音書（マルコ、マタイ、ルカ）の相互関係、並びに「史的イエス」についての考察。

＜到達目標＞
①共観福音書の相互の関係についての理解を深め、それぞれの福音書の神学的特徴や強調点を把握する。②共観福音書の書かれた時代の政治・経済・文化についての理解を深め、それによって「史的イエス」についてのより豊かな認識を得る。

＜授業の概要＞
新約学における標準的な共観福音書研究のための主要なツールを概観する。具体的には「マルコ優先説」に立ってマルコから始め、次いで主に編集史批評の観点からマタイ、ルカ福音書を見ていく。三福音書の違いを踏まえた上で、「史的イエス」の諸問題についても考察していく。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
第１回　　イントロダクション＆オリエンテーリング
第２回　「マルコ優先説」について
第３回　「編集史批評」（Ⅰ）：マルコと、マタイ・ルカ福音書の関係について
第４回　「編集史批評」（Ⅱ）：マタイ福音書とルカ福音書の関係について
第５回　　福音書の「社会科学的研究」についての考察
第６回　　社会科学研究の重要なツール：ヨセフス『ユダヤ戦記』
第７回　　福音書の「物語批評」について
第８回　　史的イエス研究（Ⅰ）：研究史
第９回　　史的イエス研究（Ⅱ）：様々なイエス像
第１０回　学生発表
第１１回　マルコ福音書の著者・成立時期
第１２回　マタイ福音書の著者・成立時期
第１３回　ルカ福音書の著者・成立時期
第１４回　三福音書の違いとその神学的意味
第１５回　総括
期末試験

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
事前に指示した課題に取り組んでおくこと。

＜テキスト＞
講師が用意するパワーポイント。

＜参考書・参考資料等＞
①G.N.スタントン『福音書とイエス』（ヨルダン社、1998 年）②J.H.チャールズワース『これだけは知っておきたい史的イエス』（教文館、2008 年）③N. T. Wright, *Jesus and the Victory of God* (Minneapolis: Fortress, 1996)、その他は講義において紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席が 2/3 に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業態度、発表、期末試験を綜合して評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントを付けて返却する。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MA230104
新約聖書学特研Ⅱｂ	山口　希生	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞ 前期（a）を履修していることが望ましい	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
共観福音書（マルコ、マタイ、ルカ）各書の研究、釈義。

＜到達目標＞
①共観福音書の各書の違いや特徴を踏まえた上で、福音書が書かれた時代背景を踏まえながら適切な釈義が行えること。②説教に活かせる釈義を身につける。

＜授業の概要＞
前期に学んだ共観福音書研究のための様々な研究ツールを活用しながら、マルコ・マタイ・ルカ各福音書を読み進める。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　イントロダクション＆オリエンテーリング
第２回　マルコ福音書の神学研究・釈義（1）
第３回　マルコ福音書の神学研究・釈義（2）
第４回　マルコ福音書の神学研究・釈義（3）
第５回　マルコ福音書の神学研究・釈義（4）
第６回　マタイ福音書の神学研究・釈義（1）
第７回　マタイ福音書の神学研究・釈義（2）
第８回　マタイ福音書の神学研究・釈義（3）
第９回　マタイ福音書の神学研究・釈義（4）
第１０回　学生発表
第１１回　ルカ福音書の神学研究・釈義（1）
第１２回　ルカ福音書の神学研究・釈義（2）
第１３回　ルカ福音書の神学研究・釈義（3）
第１４回　ルカ福音書の神学研究・釈義（4）
第１５回　総括
期末試験

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
事前に指示した課題に取り組んでおくこと。

＜テキスト＞
講師が用意するパワーポイント。

＜参考書・参考資料等＞
①R. T. France, *The Gospel of Mark* (Grand Rapids: Eerdmans, 2002) ②R. T. France, *The Gospel of Matthew* (Grand Rapids: Eerdmans, 2007) ③Joel Green, *The Gospel of Luke* (Grand Rapids: Eerdmans, 1997)、その他は講義において紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席が 2/3 に足りない場合は、成績評価の対象外とする。授業態度、発表、期末試験を綜合して評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントを付けて返却する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB111101
組織神学特講Ⅰａ	須田　拓	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞ 学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
終末論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、深い教義学の理解を持つことを目指す。

＜到達目標＞
終末論について、現代神学にどのような議論があるのかを知り、自ら考えることができるようになる。

＜授業の概要＞
終末論について講義する。論点を整理した上で、現代の様々な神学者の議論を概観し、あるべき終末論の姿を模索する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　終末論の論点(1) 個人的終末論と社会的終末論
第３回　終末論の論点(2) 現在的終末論と将来的終末論
第４回　終末論の論点(3) 時間と永遠
第５回　個人的終末論と社会的終末論(1) ユルゲン・モルトマンの場合
第６回　個人的終末論と社会的終末論(2) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合
第７回　個人的終末論と社会的終末論(3) ロバート・ジェンソンの場合
第８回　中間総括
第９回　現在的終末論と将来的終末論(1) ユルゲン・モルトマンの場合
第１０回　現在的終末論と将来的終末論(2) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合
第１１回　現在的終末論と将来的終末論(3) ロバート・ジェンソンの場合
第１２回　時間と永遠(1) カール・バルトの場合
第１３回　時間と永遠(2) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合
第１４回　時間と永遠(3) ユルゲン・モルトマンの場合
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる

＜テキスト＞
特になし

＜参考書・参考資料等＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポート（4,000 字程度）によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
個別の求めに応じてコメント、指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB111102
組織神学特講Ｉｂ	須田　拓	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞ 学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
贖罪論の諸相を学ぶことを通して、教会が宣べ伝えてきた福音の中心について深い教義学の理解を持つことを目指す。

＜到達目標＞
贖罪という信仰の重要なテーマについて、歴史的にどのような議論があるのかを知り、自らこの問題について考えることができるようになる。

＜授業の概要＞
贖罪論について講義する。論点を整理した上で、宗教改革期やピューリタンの議論を概観し、現代の神学者たちの議論を踏まえつつ、あるべき贖罪論の姿を模索する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　贖罪論の論点(1) 贖罪論の類型とその問題
第３回　贖罪論の論点(2) 福音と贖罪、三位一体論的贖罪論
第４回　古代における贖罪論 エイレナイオスとアウグスティヌスの場合
第５回　宗教改革期の贖罪論(1) ルターの場合
第６回　宗教改革期の贖罪論(2) カルヴァンの場合
第７回　中間総括
第８回　ピューリタンの贖罪論(1) アルミニウス主義とソッツィーニ主義の場合
第９回　ピューリタンの贖罪論(2) 会衆派（ジョン・オーウェン, トマス・グッドウィン）の場合
第１０回　ピューリタンの贖罪論(3) 長老派（リチャード・バクスター）の場合
第１１回　現代の贖罪論(1) ジェームス・デニーとピーター・フォーサイスの場合
第１２回　現代の贖罪論(2) カール・バルトの場合
第１３回　現代の贖罪論(3) ヴォルフハルト・パネンベルクとユルゲン・モルトマンの場合
第１４回　現代の贖罪論(4) トマス・トーランスの場合、その他
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる

＜テキスト＞
特になし

＜参考書・参考資料等＞
授業において、必要に応じて指示する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポート（4,000 字程度）によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
個別の求めに応じてコメント、指導する。

＜大学院博士課程前期課程シラバス　差替え＞

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB112101
信条学	芳賀　力→須田　拓	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞ 前期のみ開講	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。

＜到達目標＞
古代教会の基本信条および宗教改革期以後の代表的な信条の特色を知り、私たちの教会が受け継いできた信仰について深い理解を持つことができる。

＜授業の概要＞
信条の歴史的背景を概説した上で、各信条・信仰告白を丁寧に読む。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　信条とは何か、信条学とは
第３回　基本信条(1) 使徒信条
第４回　基本信条(2) ニケア・コンスタンティノーポリス信条
第５回　基本信条(3) アタナシオス信条
第６回　ルター派の諸信条(1) アウグスブルク信仰告白
第７回　ルター派の諸信条(2) 大教理問答・小教理問答
第８回　ルター派の諸信条(3) 和協信条
第９回　改革派の諸信条(1) 第一スイス信仰告白
第１０回　改革派の諸信条(2) 第二スイス信仰告白、ジュネーヴ教会信仰問答
第１１回　改革派の諸信条(3) ハイデルベルク信仰問答、その他
第１２回　英国の諸信条(1) スコットランド信条、英国国教会３９箇条
第１３回　英国の諸信条(2) ウェストミンスター信仰告白とサヴォイ宣言
第１４回　メソディスト教会とバプテスト教会の信仰告白
第１５回　日本基督教団信仰告白

＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
授業で扱う信条・信仰告白を読んでくること。

＜テキスト＞
特になし。

＜参考書・参考資料等＞
『信条集』前後篇，新教出版社（新教セミナーブック 4）
その他、必要に応じて授業の中で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況およびレポートによって評価する。共通評価指標(1)に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
提出されたレポートについては、個別の求めに応じてコメントし、指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB121101
組織神学演習Ｉａ	芳賀　力	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞ 通年の登録が望ましいが、片学期でも可。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
公共的真理としての福音は、啓蒙主義以降の世俗化した近代社会にあって私的な事柄に成り下がっている。どうしたらもう一度福音の権威を取り戻すことができるのか、その方途を探る。

＜到達目標＞
世俗化した文化の中にあっても、確信を持って福音的真理を宣べ伝えることのできる力を身に着ける。

＜授業の概要＞
分担してテキストの要約を発表し、提示されたコメントを手がかりに全員で議論する。

＜履修条件＞
組織神学専攻以外の人も履修することができる。

＜授業計画＞

第１回	オリエンテーション	
第２回	L.Newbigin『ギリシャ人には愚かなれど』	第１章
第３回	同上	第２章
第４回	同上	第３章
第５回	同上	第４章
第６回	同上	第５章
第７回	同上	第６章
第８回	L.Newbigin『宣教学入門』	第１章、第２章
第９回	同上	第３章
第１０回	同上	第４章
第１１回	同上	第５章、第６章
第１２回	同上	第７章
第１３回	同上	第８章
第１４回	同上	第９章
第１５回	同上	第10章

＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
担当に当たっていない場合でも、前もって目を通しておくこと。

＜テキスト＞
L.Newbigin『ギリシャ人には愚かなれど』新教出版社、2007 年。同『宣教学入門』日本基督教団出版局、2010 年。教員が用意する。

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて授業内で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末にレポートを提出する。共通評価指標（1）のうち、特に②と④に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表については授業中にコメントする。レポートについては、個別の求めに応じてコメントし、指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB121102
組織神学演習Ｉｂ	芳賀　力	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞ 通年の登録が望ましいが、片学期でも可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
ポスト・キリスト教時代にあって、キリスト者は「寄留の他国人」であるが、そのような中で、公共の真理としての福音を物語る聖書の民の使命と課題について考える。

＜到達目標＞
非キリスト教的な文化の中にあっても、確信を持って福音的真理を宣べ伝えることのできる力を身に着ける。

＜授業の概要＞
分担してテキストの要約を発表し、提示されたコメントを手がかりに全員で議論する。

＜履修条件＞
組織神学専攻以外の人も履修することができる。

＜授業計画＞

第１回	S.Hauerwas『平和を可能にする神の国』	第１章
第２回	同上	第２章
第３回	同上	第３章
第４回	同上	第４章
第５回	同上	第５章
第６回	同上	第６章
第７回	同上	第７章
第８回	同上	第８章
第９回	S.Hauerwas/W.H.Willimon『旅する神の民』	第１章
第１０回	同上	第２章
第１１回	同上	第３章
第１２回	同上	第４章
第１３回	同上	第５章
第１４回	同上	第６章
第１５回	同上	第７章

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
担当に当たっていない場合でも、前もって目を通しておくこと。

＜テキスト＞
S.Hauerwas『平和を可能にする神の国』新教出版社、1992 年。同『旅する神の民』教文館、1999 年。教員が用意する。

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて授業内で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末にレポートを提出する。共通評価指標（1）のうち、特に②と④に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表については授業中にコメントする。レポートについては、個別の求めに応じてコメントし、指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB121103
組織神学演習Ⅱａ	神代　真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞　特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
組織神学の代表的文献であるカール・バルトの『教会教義学』の精読を通して、組織神学的思考を養う。また、20世紀の代表的神学者であるバルトの神学思想の特色について基本的な事柄を理解する。

＜到達目標＞
①高度な神学書の読解力を身に着ける。②バルトの神学的思惟の特徴を理解する。③バルトを通して教義学の特定の課題についての総合的な理解を身に着ける。

＜授業の概要＞
バルトの『教会教義学』から和解論（第二部）のキリスト論にあたる「人の子の高挙」（64 節）の後半を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。

＜履修条件＞
難しい学びに挑戦し、自分の可能性を広げようとする意欲を持っていること。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　テキスト、3～11 頁（64 節　3. 王的人間①）
第３回　同、11～24 頁（同②）
第４回　同、24～32 頁（同③）
第５回　同、33～48 頁（同④）
第６回　同、48～69 頁（同⑤）
第７回　同、70～85 頁（同⑥）
第８回　同、85～98 頁（同⑦）
第９回　同、98～118 頁（同⑧）
第 10 回　同、118～138 頁（同⑨）
第 11 回　同、138～149 頁（同⑩）
第 12 回　同、149～165 頁（同⑪）
第 13 回　同、165～182 頁（同⑫）
第 14 回　同、183～194 頁（同⑬）
第 15 回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
演習なので、必ずテキストをよく読んでから出席すること。

＜テキスト＞
カール・バルト、『教会教義学・和解論Ⅱ／２　主としての僕イエス・キリスト　上〈2〉』、井上良雄訳（新教出版社、オンデマンド）。

＜参考書・参考資料等＞
授業の中で適宜、紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度（30%）および小課題（70%）による。共通評価指標に準拠して評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
提出された課題について、個別の求めに応じて講評・指導する。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MB121104
組織神学演習Ⅱｂ	神代　真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞　特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
前期と同じ。

＜到達目標＞
前期と同じ。

＜授業の概要＞
前期と同じ。

＜履修条件＞
前期と同じ。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション、およびテキスト、195～211 頁（64 節　4. 御子の訓令①）
第２回　テキスト、212～224 頁（同②）
第３回　同、224～238 頁（同③）
第４回　同、239～253 頁（同④）
第５回　同、253～263 頁（同⑤）
第６回　同、263～279 頁（同⑥）
第７回　同、279～294 頁（同⑦）
第８回　同、294～313 頁（同⑧）
第９回　同、313～329 頁（同⑨）
第 10 回　同、329～341 頁（同⑩）
第 11 回　同、341～351 頁（同⑪）
第 12 回　同、351～362 頁（同⑫）
第 13 回　同、363～375 頁（同⑬）
第 14 回　同、375～393 頁（同⑭）
第 15 回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
前期と同じ。

＜テキスト＞
前期と同じ。

＜参考書・参考資料等＞
前期と同じ。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
前期と同じ。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
前期と同じ。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MB211101
教会史特講Ⅰａ	佐野　正子	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
16・17 世紀イングランドにおけるプロテスタント諸教派の成立とその歴史

＜到達目標＞
宗教改革後にイングランドにおいて成立した諸教派の歴史とその特徴を理解する。歴史神学の第一次資料を読み解く力を養う。

＜授業の概要＞
16 世紀から 17 世紀にかけて成立したイングランドのプロテスタント諸教派の歴史とその特徴を、講義と参加学生による発表という形式で学ぶ。

＜履修条件＞
特になし。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　イギリスにおけるプロテスタント諸教派の歴史概観
第３回　イングランド国教会（主教制）の成立とその歴史
第４回　イングランド国教会（主教制）の特徴
第５回　長老派の成立とその歴史
第６回　長老派の特徴
第７回　会衆派の成立とその歴史
第８回　会衆派の特徴
第９回　バプテスト派の成立とその歴史
第１０回　バプテスト派の特徴
第１１回　長老派・会衆派・バプテスト派の信仰告白（「ウェストミンスター信仰告白」「サヴォイ宣言」「」第二ロンドン信仰告白）の比較–類似点
第１２回　長老派・会衆派・バプテスト派の信仰告白（「ウェストミンスター信仰告白」「サヴォイ宣言」「」第二ロンドン信仰告白）の比較–相違点
第１３回　フレンズ派（クェーカー）の成立とその歴史、特徴
第１４回　諸教派の新大陸アメリカにおける展開
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
配布資料を読み、授業で示される参考書で学びを深めること。

＜テキスト＞
プリントを配布する。

＜参考書・参考資料等＞
シェリダン・キリー他編『イギリス宗教史–前ローマ時代から現代まで』法政大学出版局、浜林正夫『イギリス宗教史』大月書店、その他は授業において必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度・発表・期末レポートにより、共通評価指標(1)に基づいて総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
授業毎に提出されるコメントシートに基づき、次の授業の冒頭でいくつか代表的なコメントを紹介し、コメントシートに記された質問に答えて、応答する。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MB211102
教会史特講Ⅰｂ	飯田　仰	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
カパドキア教父の神学思想を学び、特にカエサリアのバシレイオスを中心に理解を深める。

＜到達目標＞
カパドキア教父に見られる教会の歴史と教理の発展を概観できるようになる。また、一次史料を読み込み、史料を用いることによる歴史神学研究の方法論を習得し、教会史を歴史神学的に論じることができるようになる。

＜授業の概要＞
毎回のテーマに関連するレジュメと史料を配布しての講義及び学生とのディスカッションを行う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　ガイダンス、カパドキア教父の生涯及び時代背景、史料の概略と古代書簡学について
第２回　カエサリアのバシレイオス：創造論①　『書簡』及び『聖霊論』から見る創造論について
第３回　カエサリアのバシレイオス：創造論②　『ヘクサエメロン』から見る創造論について
第４回　カエサリアのバシレイオス：三位一体論①　位格の理解について
第５回　カエサリアのバシレイオス：三位一体論②　『書簡』に見られる三位一体論について
第６回　カエサリアのバシレイオス：三位一体論③　『エウノミオス反駁』からの特徴について
第７回　カエサリアのバシレイオス：教会論①　『書簡』及び『聖霊論』から見る教会論について
第８回　カエサリアのバシレイオス：教会論②　「コイノニア」他の特徴的概念について
第９回　カエサリアのバシレイオス：修道制とその神学思想①　『修道士大規程』に見られる特徴について
第１０回　カエサリアのバシレイオス：修道制とその神学思想②　『書簡』から見る修道制について
第１１回　ニュッサのグレゴリオス：『エウノミオス反駁』より
第１２回　ニュッサのグレゴリオス：『人間創造論』、『教理大講話』他より
第１３回　ナジアンゾスのグレゴリオス：『神学講話』より
第１４回　ナジアンゾスのグレゴリオス：『書簡』より
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
配布テキスト（日本語、英語、ギリシャ語）をよく読んで準備すること。また、教会史Ⅰの内容を主によく復習しておくこと。授業内で紹介する先行研究を読み準備すること。

＜テキスト＞
アンソニー・メレディス『カッパドキア教父：キリスト教とヘレニズムの遺産』（津田謙治訳、新教出版社、2011 年）。一次史料と共に担当者が用意する。

＜参考書・参考資料等＞
J・メイエンドルフ『ビザンティン神学：歴史的傾向と教理的主題』（鈴木浩訳、新教出版社、2009 年）。J.N.D.ケリー『初期キリスト教教理史＜上＞＜下＞』（津田謙治訳、一麦出版社、2010 年）、他。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
講義の出席を前提とし、①事前準備の具合（テキストの読み込み）、②授業での議論への積極的な参加、③期末レポートによって、共通評価指標（１）に基づいて総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
提出された課題について個別の求めに応じて個別指導する。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MB222101
教理史演習Ｉａ	本城　仰太	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞　特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
信条と信仰告白の必須性（テキストの第二章）を学ぶ。

＜到達目標＞
聖書や二千年にわたる信条・信仰告白に関して、「信じることと告白すること」、「信仰の定義」、「信仰を告白すること」、「信仰告白の内容」といった観点から整理し、論じることができるようになる。また、史料を用いる力を養い、関連する教理を論じられるようになる。

＜授業の概要＞
毎回のテーマに関連する史料を配布しての講義、学生による発表（一人当たり 1～2 回）、ディスカッションを行う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　ガイダンス、テキストについて、信条と信仰告白の定義
第２回　「信条」と「信仰告白」という用語をめぐって
第３回　「信じることと告白すること」①（古代から中世）
第４回　「信じることと告白すること」②（中世から改革期）
第５回　「信じることと告白すること」③（改革期から近現代）
第６回　「信仰の定義」①（信仰の定義と信仰義認の教理の影響）
第７回　「信仰の定義」②（知識として、同意として、信頼としての信仰）
第８回　「信仰の定義」③（主観的信仰と客観的信仰の関係）
第９回　「信仰の定義」④（信じることの対象）
第１０回　「信仰を告白すること」①（信仰の真理の告白、感謝あるいは賛美の告白、罪の告白）
第１１回　「信仰を告白すること」②（個人としての告白と共同体としての告白）
第１２回　「信仰を告白すること」③（共同体としての信仰の告白と聖書における告白の規範的モデル）
第１３回　「信仰告白の内容」①（イエス・キリストを告白する、古代との連続性）
第１４回　「信仰告白の内容」①（近現代の新しい信仰告白）
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
教会史Ｉ～Ⅳの関連する事柄や史料をよく復習しておくこと。また配布テキストをよく読んでおくこと。

＜テキスト＞
J. Pelikan, *Credo：Historical and Theological Guide to Creeds and Confessions of Faith in the Christian Tradition,* New Haven and London：Yale University Press, 2003 の第二章（The Creedal and Confessional Imperative）（初回の授業で訳を配布する）。その他必要な史料は授業中に配布、または指示する。

＜参考書・参考資料等＞
ケリー『初期キリスト教信条史』（服部修訳、一麦出版社、2011 年）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表、③期末レポートによって、共通評価指標（１）に基づいて総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回の授業で質問を受け付け、レポートは採点後、コメントをつけて返却する。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MB222102
教理史演習Ｉｂ	本城　仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞　特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
教理としての信仰告白（テキストの第三章）を学ぶ。

＜到達目標＞
聖書や二千年にわたる信条・信仰告白に関して、「教会の教え」、「教理の体系」、「諸教理と教理」、「教義としての教理」といった観点から整理し、論じることができるようになる。また、史料を用いる力を養い、関連する教理を論じられるようになる。

＜授業の概要＞
毎回のテーマに関連する史料を配布しての講義、学生による発表（一人当たり 1～2 回）、ディスカッションを行う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　ガイダンス、テキストについて、信条と信仰告白の定義
第２回　信仰と教理の関係性
第３回　「教会の教え」①（教えることと教理）
第４回　「教会の教え」②（オリゲネスとアウグスティヌスの私的な意見と公の教理）
第５回　「教会の教え」③（信条・信仰告白における教理の優先性）
第６回　「教理の体系」①（信条・信仰告白におけるキリストの三重の職務）
第７回　「教理の体系」②（聖書の権威の下での信仰告白の体系化）
第８回　「教理の体系」③（信条・信仰告白における「健全」な教理）
第９回　「「諸教理」と教理」①（単数形と複数形の使い分け）
第１０回　「「諸教理」と教理」②（信条・信仰告白における贖罪論の類型）
第１１回　「「諸教理」と教理」③（信条・信仰告白におけるマリア論、信仰義認論、天使論）
第１２回　「「諸教理」と教理」④（信者への教育）
第１３回　「教義としての教理」①（教義 dogma の定義）
第１４回　「教義としての教理」②（近現代において教理を告白すること）
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
教会史Ｉ～Ⅳの関連する事柄や史料をよく復習しておくこと。また配布テキストをよく読んでおくこと。

＜テキスト＞
J. Pelikan, *Credo：Historical and Theological Guide to Creeds and Confessions of Faith in the Christian Tradition,* New Haven and London：Yale University Press, 2003 の第三章（Confession of the Faith as Doctrine）（初回の授業で訳を配布する）。その他必要な史料は授業中に配布、または指示する。

＜参考書・参考資料等＞
ケリー『初期キリスト教信条史』（服部修訳、一麦出版社、2011 年）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表、③期末レポートによって、共通評価指標（１）に基づいて総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回の授業で質問を受け付け、レポートは採点後、コメントをつけて返却する。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB313101
キリスト教教育特講ａ	長山　道	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞　学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
キリスト教教育の古典的な文献を読み、今日の教会や学校における実践に生かすことを目指す。

＜到達目標＞
神学書を読み、神学的に考える力を身につける。バルト、ティリッヒ、ブルンナーの教育思想の特徴を理解し、現代の課題との関連で考察できるようになる。

＜授業の概要＞
キリスト教教育の古典的なテキストを精読し、担当者の講義により理解を深め、議論することを通して、今日のキリスト教教育のあり方を考察する。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　ティリッヒ「福音主義に基づく宗教の授業の問題について」
第２回　バルト「福音と教養」（１）Bildung という概念
第３回　バルト「福音と教養」（２）福音とは
第４回　バルト「福音と教養」（３）人間の形成
第５回　バルト「福音と教養」（４）福音と教育のアンビバレントな関係
第６回　ブルンナー「キリスト教信仰と教育」（１）人間のわざとしての教育
第７回　ブルンナー「キリスト教信仰と教育」（２）教育と救済
第８回　ブルンナー「キリスト教信仰と教育」（３）信仰の創造的な力
第９回　まとめ
第１０回　ブルンナー「教育」（１）教育とは何か
第１１回　ブルンナー「教育」（２）ドイツ・ヒューマニズム
第１２回　ブルンナー「教育」（３）キリスト教教育の課題
第１３回　ティリッヒ「教育の神学」（１）教育の三方法とその相互の関係
第１４回　ティリッヒ「教育の神学」（２）教会立学校における導入的要素と人文主義的要素
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
テキストの指定された箇所を熟読してくること。不明な点は調べておくこと。

＜テキスト＞
『ティリッヒ著作集第 7 巻』白水社、1999 年。『カール・バルト著作集第 5 巻』新教出版社、1986 年。『ブルンナー著作集第 6 巻』教文館、1996 年。佐藤敏夫編『世界教育宝典キリスト教教育編』玉川大学出版部、1969 年。担当者が用意する。

＜参考書・参考資料等＞
授業内で適宜指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
ディスカッションによって、共通評価指標(1)①～③に基づき評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
解説、講評、個別のコメントをする。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB313102
キリスト教教育特講ｂ	長山　道	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞　学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
宗教心理学的な文献を読み、今日の教会における教育に生かすことを目指す。

＜到達目標＞
教育心理学をクリティカルに理解する力、神学的に考える力を身につける。キリスト教教育学と心理学の根本問題を理解し、現代の課題、とりわけ「宗教２世問題」との関連で考察できるようになる。

＜授業の概要＞
テキストを精読し、理解を深め、議論することを通して、今日の教会教育のあり方を考察する。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　隠れた行為者は至る所に
第３回　顔のついた毛玉の実験
第４回　目的を探す子どもたち
第５回　創造主を認識する
第６回　神の心
第７回　神の性質
第８回　不死、幽霊そして死後に関する信念
第９回　自然宗教
第１０回　自然宗教から神学的多様性へ
第１１回　子どもっぽくってもいい
第１２回　何かを信じるなんて馬鹿みたい？
第１３回　無神論は非自然的？
第１４回　神に子どもを引き合わせるべきか？
第１５回　子どもの宗教性発達を促す

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
テキストの指定された箇所を熟読してくること。不明な点は調べておくこと。

＜テキスト＞
J・L・バレット『なぜ子どもは神を信じるのか？』、教文館、2023 年。学生各自で入手する。

＜参考書・参考資料等＞
授業内で適宜指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
ディスカッションによって、共通評価指標(1)①～③に基づき評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
解説、講評、個別のコメントをする。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB321101
実践神学演習ａ	小泉　健	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
前期はクラドック『権威なき者のごとく』をテキストにし、帰納的説教について考察する。

＜到達目標＞
帰納的説教の意義を捉えた上で、日本の教会における有効性を自分なりに判断すること。

＜授業の概要＞
毎回発表担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で討論を行う。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション　演繹的説教と帰納的説教
第２回　第一章　影に覆われた説教卓
第３回　第二章　スポットライトを浴びる説教卓
第４回　説教することにおいて何が課題なのか？
第５回　第三章　説教の帰納的な動き
第６回　第四章　帰納的説教とイマジネーション
第７回　第五章　帰納的な動きと説教の統一
第８回　第六章　帰納的な動きとテキスト
第９回　第七章　帰納的な動きと構造
第１０回　説教の形式
第１１回　付録Ａ　説教のプロセスのスケッチ例
第１２回　付録Ｂ　説教例「頌詠」
第１３回　説教の初めと結び
第１４回　日本の教会における帰納的説教
第１５回　総括

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。

＜テキスト＞
フレッド・B・クラドック『権威なき者のごとく　会衆と共に歩む説教』教文館、2002 年。

＜参考書・参考資料等＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表、討論への参加によって評価する。評価は、共通評価指標（1）の全体による。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表に対しては授業の中で応答や指導を行う。討論に対しても随時応答する。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB321102
実践神学演習ｂ	小泉　健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
後期はナウエン『傷ついた癒し人』をテキストにし、教会での奉仕と牧会について考察する。

＜到達目標＞
ナウエンの神学思想を理解すること。テキストに助けられつつ、伝道者像を構築すること。

＜授業の概要＞
毎回発表者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で討論を行う。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション　ヘンリ・ナウエンについて
第２回　「はじめに」、第一章の「序」、「一　現代における人間の苦境」
第３回　第一章の「二　現代における人間解放への道」、「結び」
第４回　現代社会と現代人をどのように理解するか？
第５回　第二章の「序」、「一　明日の世代」
第６回　第二章の「二　明日のリーダー」、「結び」
第７回　信仰を導くとはどういうことか？
第８回　第三章の「序」、「一　ハリソン氏の状態」
第９回　第三章の「二　ハリソン氏を明日へと導くには」
第１０回　第三章の「三　キリスト教のリーダーシップの原則」、「結び」
第１１回　牧師とは何者なのか？
第１２回　第四章の「序」、「一　傷ついた牧会者」
第１３回　第四章の「二　癒す牧会者」、「結び」
第１４回　「おわりに」、「解説」
第１５回　総括

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。

＜テキスト＞
ヘンリ・ナウエン『傷ついた癒し人　新版』日本キリスト教団出版局、2022 年。

＜参考書・参考資料等＞
酒井陽介『ヘンリ・ナウエン　傷ついても愛を信じた人』日本キリスト教団出版局、2023 年。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表、討論への参加によって評価する。評価は、共通評価視聴（1）の全体による。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表に対しては授業の中で応答や指導を行う。討論に対しても随時応答する。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB322101
臨床牧会教育ａ	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる

＜授業のテーマ＞
病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。

＜到達目標＞
自分の牧会者像を明確にすること。

＜授業の概要＞
救世軍ブース記念病院を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。

＜履修条件＞
講義は登録者２人以上から６人未満で成立する。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション
第２回　自叙伝の発表
第３回　牧会を考える映画を見る。
第４回　第３回の授業で見た映画のディスカッションを行う。
第５回　院長による精神病理の講義。病院見学。

第６回から第１５回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。

＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。

＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。

＊各学生によるケース提出とディスカションを行う。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 90 分～120 分を目安とする。
遅刻をしないこと。
休まないこと。

＜テキスト＞
必要に応じて配る。

＜参考書・参考資料等＞
聖書

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
実習の参加度によって評価する。期末面談によって評価する。出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1)」によって総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
グループスーパービジョンと個人スーパービジョンでフィードバックする。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB322102
臨床牧会教育ｂ	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる

＜授業のテーマ＞
病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。

＜到達目標＞
自分の牧会者像を明確にすること。

＜授業の概要＞
救世軍ブース記念病院を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。

＜履修条件＞
臨床牧会教育ａを終えていること。
講義は登録者２人以上から６人未満で成立する。

＜授業計画＞

＊各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。

＊面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。

＊各自のケース・リポートをし、ケース・スタディをする。

第１回から第１５回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。

＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 90 分～120 分を目安とする。
遅刻をしないこと。
休まないこと。

＜テキスト＞
必要に応じて配る。

＜参考書・参考資料等＞
聖書

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
実習の参加度によって評価する。期末面談によって評価する。出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。
「共通評価指標（1）」によって総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
グループスーパービジョンと個人スーパービジョンでフィードバックする。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB333101
キリスト教教育特研ａ	朴　憲郁	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
聖書神学の視点からの教育論

＜到達目標＞
キリスト教教育を基礎づける聖書的考察に習熟する

＜授業の概要＞
最初に、キリスト教的人間形成論を概観する。その上で、福音書が描く教師イエス像と共同体形成、およびヘブライ書の＜主のパイデイア＞概念を中心に、聖書の教育論の諸局面を学んでいく

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　キリスト教的人間形成と教育（講義）－１）はじめに、「神の像」の形成、Christian Formation の意味、（480～482 頁）
第２回　２）Christian Formation の聖書的根拠－第二コリント書３章１８節の意味と今日的射程－、コメニウスの＜神の像＞の理解、伝統的＜神の像＞の復権（482～484 頁）
第３回　３）「キリスト教的人間形成と教育」の教育実践－人格教育の問題（485～487 頁）
第４回　４）キリスト教的人間形成－その担い手、キリスト教学校の働き（487～489 頁）
第５回　対決を含むキリスト教的人間形成（講義）、（490～493 頁）
第６回　公共的モラル形成力としてのキリスト教的人間形成（493～500 頁）
第７回　教師イエスと共同体の形成－１）はじめに、福音書にみられる教師イエス（3～8 頁）
第８回　教師イエスと共同体の形成－２）神学的考察、帰結（8～13 頁）
第９回　教師イエスと共同体の形成－３）イエスの言葉伝承の継承にみられるパウロの教師理解（新たな視点、ラビ的伝承方法の摂取）（13～15 頁）
第１０回　教師イエスと共同体の形成－４）霊的教師、むすび（15～18 頁）
第１１回　イエス伝承と教会教育
第１２回　ヘブライ書１２章４～１１節の＜主のパイデイア＞概念（29 頁～）－
１）はじめに、N.T.における「教育」（パイデイア）の概観
第１３回　２）釈義的考察
第１４回　３）宗教教育学的意義
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
全員、事前にテキストの当該箇所に目を通してディスカッションできる備えをする。

＜テキスト＞
朴　憲郁 『現代キリスト教教育学研究－神学と教育の間で－』 日本キリスト教団出版局、2020 年 8 月
テキストは学生各自が（著者から）購入

＜参考書・参考資料等＞
授業の中で随時紹介する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業時の発表、討論への参加度、および期末レポート（4,000 字程度）によって評価する。
2/3 以上の授業出席者を評価の対象とする。共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する

＜課題に対するフィードバックの方法＞
提出されたレポートにコメントを付して返却する

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MB333102
キリスト教教育特研ｂ	朴　憲郁	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
神学的諸分野におけるキリスト教教育学の展開

＜到達目標＞
現代のキリスト教教育学の重要な諸テーマを神学的に把握する

＜授業の概要＞
シュライエルマッハーの宗教教育思想を初め、創造論における自然神学の再考、宗教と生活史、宗教改革者ルターによる教育的意義を確認する

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　ルターとの対比におけるシュライエルマッハーの宗教教育の根本思想（149～165 頁）、１）近代の発端としての人格的な宗教と教育（149～153 頁）
第２回　２）宗教論と信仰論、ルターとシュライエルマッハーとの神学的相違（153～156 頁）
第３回　３）宗教改革的基盤に立つ信仰と教育（156～157 頁）
第４回　４）ルターのカテキズム教育（157~159 頁）
第５回　５）経験としての啓示、むすび（159～165 頁）
第６回　創造論における自然神学の再考－「媒介」概念の厳密化（166～169 頁）
第７回　自然神学問題の新たな定式化（169～174 頁）
第８回　宗教教育学的結論　１）経験における神言述（174～180 頁）
第９回　宗教教育学的結論　２）聖書的・キリスト教的隠喩と象徴の解釈による神学的人間論（180～182 頁）
第１０回　宗教教育学的結論　３）経験と現実に関連づけた神言述、むすび（182～190）
第１１回　歴史の中に働く神（個人史的視点から）―１）歴史と神の歴史（191～196 頁）
第１２回　宗教と生活史（196～205 頁）
第１３回　ルターにおける教会とこの世への責任的地平－１）宗教改革の教育的意義と人間理解（206～213 頁）
第１４回　２）教会とこの世への責任的地平－ルターの二統治説を巡る論争、その他（213～218 頁）
第１５回　２）教会とこの世への責任的地平－敬虔と教育、その他（218～227 頁）

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
全員、事前にテキストの当該箇所に目を通してディスカッションできる備えをする。

＜テキスト＞
朴　憲郁 『現代キリスト教教育学研究－神学と教育の間で－』 日本キリスト教団出版局、2020 年 8 月
テキストは学生各自が（著者から）購入

＜参考書・参考資料等＞
授業の中で随時紹介する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業時の発表、討論への参加度、および期末レポート（4,000 字程度）によって評価する。
2/3 以上の授業出席者を評価の対象とする。共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する

＜課題に対するフィードバックの方法＞
提出されたレポートにコメントを付して返却する

専攻間共同科目		授業番号　MC122101
アジア伝道論演習ａ	朴　憲郁	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
東北・東南アジア・キリスト教伝道の歴史と現実

＜到達目標＞
東北・東南アジア諸国におけるキリスト教の意義と役割を基本的に理解する。

＜授業の概要＞
伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北および東南のアジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に、前・後期に亘って概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
１．伝道論（宣教学）とは何か（講義）
２．伝道論の歴史的経緯、ニュービギンの宣教学（講義）

（以下、３から１４まで発表と討議、コメント）
３．景教の東方伝道、韓国のキリスト教（初期カトリック史）
４．韓国のキリスト教（プロテスタント史）
５．中国のキリスト教（初期カトリック史）
６．中国のキリスト教（プロテスタント史）
７．台湾のキリスト教（１６世紀～１８世紀）
８．台湾のキリスト教（１９世紀～現代）
９．香港のキリスト教
１０．フィリピンのキリスト教
１１．タイのキリスト教
１２．マレーシアのキリスト教
１３．ミャンマー、カンボジアのキリスト教
１４．ベトナム、ラオスのキリスト教
１５．総括

＜準備学習等の指示＞1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする
指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。

＜テキスト＞
『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991 年。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める

＜参考書・参考資料等＞
1. 『アジア・キリスト教史[１]』、1989 三版、2. 『アジア・キリスト教史[２]』、1985 年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
共通評価指標に基づいて評価する。
授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000 字以上）などによって評価する。
出席が２／３に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標の①～⑤を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
提出されたレポートにコメントを付して返却する。

専攻間共同科目		授業番号　MC122102
アジア伝道論演習ｂ	朴　憲郁	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞特になし	

教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
今日の伝道(宣教)学

＜到達目標＞
アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、２０世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。

＜授業の概要＞
伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回：　序説１－伝道（宣教）学とは何か－
第２回：　序説２（その１）－キリスト論的三位一体論
第３回：　序説２（その２）－キリスト論的三位一体論における諸宗教との対話－
第４回：　序説３－韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判
（以下、テキストに従って、５～１４まで学生発表と講義）
第５回：　議論の背景
第６回：　権威の問題
第７回：　三位一体の神の宣教
第８回：　御父の御国を宣べ伝えること－信仰としての宣教－
第９回：　御子の生を分かち合うこと－愛としての宣教－
第 10 回：　聖霊の証しを担うこと－希望としての宣教－
第 11 回：　福音と世界の歴史
第 12 回：　神の正義のための行動としての説教
第 13 回：　教会成長、改宗、文化
第 14 回：　諸宗教の中の福音
第 15 回：　アジア伝道の反省と展望（総括）

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。

＜テキスト＞
レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010 年。各自で入手すること。

＜参考書・参考資料等＞
1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology - Focused on Christology -,『神学』７２号、東京神学大学神学会、2010 年、教文館、143～166 頁

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
共通評価指標に基づいて評価する。
授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000 字以上）などによって評価する。
出席が２／３に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標の①～⑤を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
提出されたレポートにコメントを付して返却する。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MD120101
修士論文指導演習　旧約神学Ⅰ	田中　光	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
旧約聖書学の範疇で修士論文を作成すること。

＜到達目標＞
修士論文の作成を通して、自らの神学的問いを発見し、その問いと取り組むことによって一つの答えを導き出すこと。

＜授業の概要＞
序盤で論文の書き方を確認し、その後、次のような順で学生に発表していただく。１）興味関心を持つ主題・テクストの選定、２）興味関心を持つ分野についてのリサーチ、３）問いの発見、４）テーゼの発見

＜履修条件＞
2025 年度に旧約聖書神学の分野で修士論文を提出予定の者。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション＆イントロダクション（修士論文作成の意義とプロセスの概観）
第２回　論文執筆の方法①　課題の認識とリサーチについて
第３回　論文執筆の方法②　問いの発見と論文の種類について（説明論文と論証論文）
第４回　論文執筆の方法③　聖書学の文献の種類と利用方法について
第５回　論文執筆の方法④　アウトラインとパラグラフについて
第６回　論文執筆の方法⑤　序、本論、結論それぞれの書き方について
第７回　学生による発表①　興味関心を持つ主題・テクストの選定①
第８回　学生による発表②　興味関心を持つ主題・テクストの選定②
第９回　学生による発表③　興味関心を持つ分野についてのリサーチ①
第１０回　学生による発表④　興味関心を持つ分野についてのリサーチ②
第１１回　学生による発表⑤　興味関心を持つ分野についてのリサーチ③
第１２回　学生による発表⑥　リサーチの継続＋問いの発見とテーゼの可能性の模索①
第１３回　学生による発表⑦　リサーチの継続＋問いの発見とテーゼの可能性の模索②
第１４回　学生による発表⑧　リサーチの継続＋問いの発見とテーゼの可能性の模索③
第１５回　これまでの学びの振り返りと今後の論文作成プロセスの確認

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
論文の書き方についてのレクチャーをきちんと受講した上で、自らの研究に関するリサーチを着実に進めること。

＜テキスト＞
特に定めない。

＜参考書・参考資料等＞
澤田昭夫『論文の書き方』講談社学術文庫、1977 年。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
毎回の授業での発表や授業への貢献の度合いによって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（２）によって評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表や課題に対するコメントによってフィードバックする。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		授業番号　MD120102
修士論文指導演習　旧約神学Ⅱ	田中　光	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
修士論文の作成に必要な学びを行うこと。

＜到達目標＞
修士論文の作成

＜授業の概要＞
これまでのリサーチを踏まえて、いよいよ授業の前半で問いとテーゼをしっかりと言語化する。その後、それに基づいてアウトラインを作成し、内容の執筆にとりかかる。夏休みに入る前に、論文の内容を実際に執筆できるよう、計画的に研究を進める。

＜履修条件＞
2024 年 9 月に旧約聖書神学専攻で修士論文を提出予定の者

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション&イントロダクション（論文の書き方のおさらい）
第２回　学生による発表①　先行研究の整理
第３回　学生による発表②　問いとテーゼの見通しを言語化する
第４回　学生による発表③　言語化した問いとテーゼの見通しの吟味
第５回　学生による発表④　アウトラインの作成
第６回　学生による発表⑤　アウトラインの吟味
第７回　学生による発表⑥　序の執筆
第８回　学生による発表⑦　私訳の項目の執筆
第９回　学生による発表⑧　本文批評の項目の執筆
第１０回　学生による発表⑨　本論の執筆①（内容の詳しい構想と吟味）
第１１回　学生による発表⑩　本論の執筆②（テーゼの論証に必要な議論の整理）
第１２回　学生による発表⑪　本論の執筆③（1,000 字程度執筆＋内容の吟味）
第１３回　学生による発表⑫　本論の執筆④（更に 1,000 字程度執筆＋内容の吟味）
第１４回　注・文献表の整理（形式の確認など）
第１５回　全体の振り返りと今後の論文作成プロセスの確認

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
割り当てられた課題を踏まえて、発表のために毎回リサーチを欠かさないこと。

＜テキスト＞
特に定めない。

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
毎回の発表と、修士論文の評価によって行う。共通評価指標（２）に基づいて評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回の発表に対するコメントと、修士論文への評価のコメントによってフィードバックする。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MD220101
修士論文指導演習　新約神学Ⅰ	中野　実	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
来年度に修士論文を提出予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習で、論文テーマを探し出し、論文を書くために必要な力を身につけるためのクラス。

＜到達目標＞
適切な主題を各自が選定することができ、修士論文を書くための技術を身につけることができる

＜授業の概要＞
論文を書くとはどういうことかを学びながら、各自その論文執筆を進めていく。毎回、学生の発表を中心に行われる。

＜履修条件＞
2025 年 9 月に修論を提出予定の学生

＜授業計画＞
第１回　オリエンテーション
第２回　論文を書くとは？
第３回　各自の課題、問題探し。
第４回　その課題、問題に関連するテクスト探し。
第５回　課題テクストについての学び
第６回　テーマの選定、見直し、決定。
第７回　研究のための方法およびツールについて
第８回　資料、先行研究探し。
第９回　先行研究の学び
第１０回　先行研究の学びとそこからの展開
第１１回　問題設定：テーゼへ向かって
第１２回　問題設定：テーゼの吟味
第１３回　題名、目次作成へ向かって
第１４回　議論の組み立て方
第１５回　まとめ。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
上記の授業計画に基づきながら、各自論文作成を進めていく。そのために十分な時間を割くことが求められる。ただし、論文はモノローグではないので、書物との対話はもちろん、教師、学生との対話も大切にすること。

＜テキスト＞
必要に応じて、指示する。

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて、指示する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
共通評価指標（2）に基づきつつ、クラスへの出席、課題への積極的参加度などによって総合的に評価する。テーマの選定、課題テクストの学び、先行研究の学び、論文を書く技術を磨くことなどに関しても、十分な努力をしているかどうかが評価の指標となる

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントシートなどを活用しながら、疑問、課題などを吸い上げ、適宜クラスで取り上げ、応答することにする。

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		授業番号　MD220102
修士論文指導演習　新約神学Ⅱ	中野　実	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
今年度前期末に修士論文を提出予定の学生のための演習で、毎回各自の研究内容を発表してもらいながら、研究状況を把握し、指導するためのクラスである。

＜到達目標＞
各自が修士論文を進めていくために必要な手助けが与えられ、論文を仕上げることができる

＜授業の概要＞
論文の執筆段階における、各自の研究発表が中心に進められる。指導教授および参加学生の質問や意見を聞きつつ、論文を仕上げていく。

＜履修条件＞
2024 年 9 月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出予定の学生

＜授業計画＞
第１回　オリエンテーション
第２回　問題設定の点検
第３回　資料の点検
第４回　題名、目次、議論の枠組みを整える。
第５回　より明確な問題設定の獲得
第６回　仮の序論の執筆
第７回　研究史に関する発表
第８回　研究史に学びつつ、そこからの展開
第９回　論文のテーゼの発見
第１０回　論文のテーマの点検
第１１回　議論の組み立て
第１２回　議論の組み立ての点検
第１３回　結論を書く。
第１４回　論文のフォーマットの整理、注、文献表の作成
第１５回　まとめ。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
上記の授業計画に基づきながら、各自論文執筆を進めていく。そのために十分な時間を割くことが求められる。ただし、論文はモノローグではないので、書物との対話はもちろん。教師、学生との対話も大切にすること。

＜テキスト＞
必要に応じて、適宜指示する。

＜参考書・参考資料等＞
必要に応じて、適宜指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
共通評価指標（2）に基づきつつ、クラスへの出席、課題への積極的参与度などによって総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
コメントシートなどを活用しながら、疑問、課題などを吸い上げ、適宜クラスで取り上げ、応答することにする。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MD320101
修士論文指導演習　組織神学Ⅰ	神代　真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞ 狭義の組織神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
修士論文執筆のために必要な技能を学ぶこと、および、修士論文の準備をすること。

＜到達目標＞
①組織神学の論文を書くとはどういうことか、そのために必要な技能や作業は何か、を身に着けること。
②修士論文執筆に備えての基礎的準備作業（主要文献の読解等）を終えること。

＜授業の概要＞
前半では主に論文執筆の過程を学ぶ。後半では各自の修士論文の準備を進めて貰い、順番に報告・発表して貰う。

＜履修条件＞
2025 年度に修士論文提出予定の者は必修。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション――論文の基本的要件
第２回　発表①：各自の論文の主題について
第３回　論文作成の技法①：テキストの分析――全体的な内容の把握
第４回　論文作成の技法②：テキストの分析――構成を把握する
第５回　論文作成の技法③：テキストの分析――書き方を考える
第６回　論文作成の技法④：主題の決定・文献探しについて
第７回　論文作成の技法⑤：リサーチ・主張（テーゼ）の発見・目次の検討
第８回　論文作成の技法⑥：パラグラフ
第９回　発表②：修士論文の主題と文献について（１）
第１０回　発表③：同（２）
第１１回　発表④：内容の構想について（１）
第１２回　発表⑤：内容の構想について（２）
第１３回　発表⑥：内容の構想について（３）
第１４回　発表⑦：修士論文の主題と文献表と基本構想（１）
第１５回　発表⑧：同（２）

＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
授業をきちんと受けること・自分の研究を着実に進めること。

＜テキスト＞
担当者が用意するプリント。

＜参考書・参考資料等＞
泉忠司、『90 分でコツがわかる！　論文＆レポートの書き方』（青春出版社）；小熊英二、『基礎からわかる論文の書き方』（講談社現代新書）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度および発表による。主に共通評価指標の①と②によって評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表に関し、授業内で適宜コメントする。

組織神学専攻・組織神学関係		授業番号　MD320102
修士論文指導演習　組織神学Ⅱ	神代　真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞ 狭義の組織神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
修士論文の作成にあたり、適切な内容と形式について学ぶ。

＜到達目標＞
修士論文を完成・提出すること。

＜授業の概要＞
各自の学びの成果を順に報告して貰うことで内容を検討すると共に、論文の体裁を持つ短い文章を書いて貰いながら、形式面での基本的技法を学ぶ。

＜履修条件＞
2024 年 9 月に狭義の組織神学の分野で修士論文を提出予定の者は必修。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション――修士論文の基本的要件の確認
第２回　各自の論文の主題と文献について①
第３回　各自の論文の主題と文献について②
第４回　各自の論文の主題と文献について③
第５回　主要文献の読書報告①
第６回　主要文献の読書報告②
第７回　主要文献の読書報告③
第８回　二次文献から学んだことについての報告①
第９回　二次文献から学んだことについての報告②
第１０回　二次文献から学んだことについての報告③
第１１回　主張（テーゼ）と目次と内容の構想について①
第１２回　主張（テーゼ）と目次と内容の構想について②
第１３回　主張（テーゼ）と目次と内容の構想について③
第１４回　主張（テーゼ）と目次と内容の構想について④
第１５回　形式面の確認・提出の要領について

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
最大限の時間と能力とを傾注すること。

＜テキスト＞
特になし。

＜参考書・参考資料等＞
佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著、『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド――大学生・大学院生のための自己点検法 29』（大修館書店、2019 年）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表による。修士論文用の共通評価指標を参照して評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表について、授業内で適宜コメントする。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MD420101
修士論文指導演習　歴史神学Ⅰ	本城　仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞ 歴史神学の分野で修士論文を提出する予定の学生	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
来春から本格的に修士論文に取り組めるように、修士論文のプロセスを一通り体験する。

＜到達目標＞
来春から本格的に修士論文に取り組むための力を身に着ける。

＜授業の概要＞
修士論文を書いていくためのプロセスを体験する演習を行う。各自のテーマを設定し、史料の発表を行い、ディスカッションをしながら、論文を書いていくための素材を整えていく。最終的に自分のテーマに関する学期末レポートを書く。

＜履修条件＞
歴史神学の分野で修士論文を提出する予定の学生は必修。

＜授業計画＞

第１回　歴史神学とは、神学的テーマの設定方法
第２回　演習：テーマを設定する
第３回　修論テーマ案の発表①
第４回　修論テーマ案の発表②
第５回　演習：史料を探す
第６回　演習：事典・辞書を調査する
第７回　一次史料の発表①
第８回　一次史料の発表②
第９回　一次史料の発表③
第１０回　演習：アウトラインを整える
第１１回　二次史料の発表①
第１２回　二次史料の発表②
第１３回　二次史料の発表③
第１４回　演習：注と参考文献を整える
第１５回　総括

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
『論文の書き方』を復習しておくこと。

＜テキスト＞
澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫１５３）1977 年

＜参考書・参考資料等＞
J. H. アーノルド『歴史』（新広記訳、岩波書店）、N.F.Cantor, R.I.Schneider, How to Study History. 他

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表、③期末レポートによって、共通評価指標（２）に基づいて総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回の授業で質問を受け付け、レポートは採点後、コメントをつけて返却する。

組織神学専攻・歴史神学関係		授業番号　MD420102
修士論文指導演習　歴史神学Ⅱ	本城　仰太	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞ 歴史神学の分野で修士論文を提出する予定の学生	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
修士論文の執筆に取り組んでいく。

＜到達目標＞
修士論文を作成し、提出する。

＜授業の概要＞
修士論文のテーマ設定、史料探しを行い、一次史料・二次史料を読み、アウトラインや注と参考文献を整えつつ、修士論文を書いていく。学生による数回の発表とクラスでのディスカッションを行っていく。

＜履修条件＞
歴史神学の分野で修士論文を提出する予定の学生は必修。

＜授業計画＞

第１回　歴史神学とは、神学的テーマの設定
第２回　テーマに関する発表①
第３回　テーマに関する発表②
第４回　テーマに関するディスカッション
第５回　史料に関する発表①
第６回　史料に関する発表②
第７回　史料に関するディスカッション
第８回　一次史料に関する発表①
第９回　一次史料に関する発表②
第１０回　一次史料に関するディスカッション
第１１回　二次史料に関する発表①
第１２回　二次史料に関する発表②
第１３回　二次史料に関するディスカッション
第１４回　アウトライン、注と参考文献に関する発表
第１５回　アウトライン、注と参考文献に関するディスカッション

＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
発表を繰り返していくので、指摘事項を受けとめて次の発表に備えること。

＜テキスト＞
澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫１５３）1977 年

＜参考書・参考資料等＞
特になし。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
講義の出席を前提とし、①授業での議論への積極的な参加、②授業での発表によって、共通評価指標（２）に基づいて総合的に評価する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回の発表毎にコメントをしていく。

組織神学専攻・実践神学関係		授業番号　MD520101
修士論文指導演習　実践神学Ⅰ	小泉　健 長山　道	＜担当形態＞ 複数
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP1] 主体的に神学する能力を十分に身に付けている

＜授業のテーマ＞
修士論文作成のために必要な技能を学び、次年度の論文執筆のための準備をすること。

＜到達目標＞
論文作成に必要な技能を身に着けること。論文のテーマを設定すること。主要な文献を読むこと。

＜授業の概要＞
前半では論文作成の方法を学ぶ。後半では関心のあるテーマの神学的な位置や意味を確認し、研究史を概観し、関連する文献を読み、論文の主題を明確にしていく。

＜履修条件＞
2025 年度に実践神学の分野で修士論文を提出予定である者は必ず履修すること。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション：実践神学とは何か。修士論文とは何か。
第２回　学生の発表：関心のあるテーマについて
第３回　論文作成の方法：テーマの設定と本文の組み立て方
第４回　発表を受けて：テーマを扱うために前提となる知識、神学的な位置や意味について
第５回　論文作成の方法：資料の収集、利用
第６回　発表を受けて：研究史の概観
第７回　学生の発表：研究史を踏まえてのテーマの見直し
第８回　論文作成の方法：テキストの批評
第９回　学生の発表：事典項目の批評
第１０回　論文作成の方法：論文の構成、順序、各部分で何を書くか
第１１回　学生の発表：論文の主題と主要な文献について
第１２回　学生の発表：テキストの精読
第１３回　学生の発表：解くべき問いの発見
第１４回　学生の発表：論文の構想
第１５回　研究計画の策定

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
関心のあるテーマ、もしくは神学者についての文献をすべて読むつもりで、文献の読解を進めること。

＜テキスト＞
必要に応じて担当者が準備する。

＜参考書・参考資料等＞
河野哲也『レポート・論文の書き方入門　第 3 版』（慶應義塾大学出版会）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度と発表によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（2）の①～③を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
授業の中で直接講評と指導を行うほか、論文作成のため随時相談に応じる。

実践神学研修課程		授業番号　ME111201
総合特別講義	小泉　健	＜担当形態＞ オムニバス
後期・４単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
牧会・伝道上直面する具体的な問題に適切に対応していくために専門家の指導を受ける。

＜到達目標＞
牧会上の典型的な問題とその対策を理解し、自分なりに応用するための基礎を身につけること。

＜授業の概要＞
それぞれ分野の専門家が、テーマごとに二コマを単位として講義を行う。

＜履修条件＞
これまでの学びを総合する重要な授業なので、原則として全回出席すること。

＜授業計画＞

第1回、第2回：　道家紀一　「日本基督教団 教憲・教規Ⅰ」
第3回、第4回：　篠浦千史　「障がい者と教会」
第5回、第6回：　棚村重行　「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」
第7回、第8回：　落合建仁　「日本基督教団史Ⅰ（日本基督教団成立前）、（日本基督教団成立後）」
第9回、第10回：宮本義弘　「部落差別とキリスト教」
第11回、第12回：朴 憲郁　「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」
第13回、第14回：齋藤 篤　「キリスト教の異端とカルトの問題」
第15回、第16回：小林 光　「教会付属幼稚園・保育園の使命と課題」
第17回、第18回：道家紀一　「日本基督教団 教憲・教規Ⅱ」
第19回、第20回：洪 性完　「在日コリアンと教会」
第21回、第22回：山﨑ハコネ　「高齢者ケアと牧会」
第23回、第24回：野田 沢　「青年伝道」
第25回、第26回：小島誠志　「地方伝道」
第27回、第28回：長山信夫　「日本基督教団史Ⅱ（教団史と紛争史の視点）、（教団紛争とは何であったか？）」
第29回、第30回：加藤幹夫　「牧会者の試練とその克服」
第31回、第32回：近藤勝彦　「東京神学大学史Ⅰ」
第33回、第34回：近藤勝彦　「東京神学大学史Ⅱ」
第35回、第36回：山崎忍　「刑務所伝道」
第37回、第38回：髙橋貞二郎　「学校伝道と教会」
第39回、第40回：春原禎光　「ＩＴと伝道」

＊講師は予定。
講義は金・土曜の1、2限に行われる。また、1月上旬に開催される『教職セミナー』への参加も課す。

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」 に目を通すこと。

＜テキスト＞
後日配布する「学科目概要」において各講師が指示する。

＜参考書・参考資料等＞
「テキスト」と同様、「学科目概要」において紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の③による。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
必要に応じて個別に相談に来ること。

実践神学研修課程		授業番号　ME121101
説教学演習Ⅰ	小泉　健	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
説教の本質を問う説教学的議論に触れつつ、説教作成の方法を吟味し学ぶ。

＜到達目標＞
説教作成の方法を職人芸のようにして身につけるだけではなく、つねに説教学的な反省と結びつけながら批判的に習得し、説教者として自己研鑽していくための土台を得ること。

＜授業の概要＞
説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、最初の黙想から説教行為までの実際に取り組む。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　説教と聖書、説教テキストの朗読
第２回　黙想とは何か
第３回　説教学の課題　　課題①第一黙想の提出
第４回　釈義と説教準備
第５回　歴史的方法と正典、礼拝における「聖書」、釈義とは何か
第６回　説教学的な聖書の解釈、「解釈と適用」の問題　　課題②釈義の提出
第７回　説教黙想とは何か
第８回　釈義と教理、説教と教義学
第９回　説教における説教者　　課題③説教黙想の提出
第１０回　会衆をめぐる黙想
第１１回　キリストの物語とわたしたちの生活
第１２回　説教と救済史、終末をめぐる黙想　　課題④第二の説教黙想の提出
第１３回　説教の構造と構成
第１４回　説教の始め方と終わり方
第１５回　説教の演述　　課題⑤説教原稿の提出

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
聖書全巻を通読しておくこと。日々の祈りと黙想の生活を確立すること。
説教作成の各段階の作業をていねいに行うこと。

＜テキスト＞
聖書

＜参考書・参考資料等＞
R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局（Ⅱはオンデマンド）
その他については、テーマごとに教室で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。
評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
課題を素材にして次回の授業を行う。個別に問い合わせに応じる。

実践神学研修課程		授業番号　ME121102
説教学演習Ⅱ	小泉　健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
説教学の基本を学び、説教の多様性に触れ、説教理解と説教への取り組みの幅を広げる。

＜到達目標＞
多様な説教のあり方に触れて説教理解を拡大し、説教の取り組みのための助けとすること。

＜授業の概要＞
説教のタイプや説教分析論を手がかりにして、多様な説教のあり方を知り、実際に取り組んでみる。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　説教とは何か
第２回　説教者は説教において何者か？
第３回　聖書と説教の関係
第４回　説教の聞き手をどのように考えるか？
第５回　講解説教と主題説教
第６回　カテキズム説教
第７回　建徳的説教
第８回　牧会的説教
第９回　悔い改めを迫る説教
第１０回　伝道説教
第１１回　預言者的説教
第１２回　主日聖書日課による説教
第１３回　キリスト降誕祭とキリスト復活祭の説教
第１４回　結婚式と葬儀の説教
第１５回　総括

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
聖書全巻の通読を続けること。今までに行ったことのないタイプの説教の作成に取り組むこと。

＜テキスト＞
聖書

＜参考書・参考資料等＞
W. H. ウィリモン、R. リシャー編『世界 説教・説教学事典』日本基督教団出版局、1999 年。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表と授業への参加、レポートによって評価する。共通評価指標（1）の①と③を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表に基づいて討論を行う。説教については個別の相談に応じる。

実践神学研修課程		授業番号　ME121203
説教学演習Ⅲ	神代　真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞　修士論文を提出し、前期課程を修了見込みである者。原則として必修。	

教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
テキストの釈義から、黙想を経て、説教するに至るまでの過程を、実際に経験しながら学ぶ。

＜到達目標＞
①　説得力のある説教が出来る説教者となるための基本を身に着ける。②説教を評価する批判的視点を獲得する。

＜授業の概要＞
実際にチャペルで説教することを中心とする（1 名につき 2 回）が、その前に、釈義・黙想の基礎を確認し、また、説教の作成にあたって留意しなければならない点を確認する。

＜履修条件＞
前期課程 2 年次に在籍し、修士論文を提出し、前期課程を修了見込みである者。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション――説得力のある説教とはどのようなものか
第２回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教の準備①釈義
　　＊テキストは全員共通（マルコ 12：28～34）とする。
第３回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教の準備②黙想
第４回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）①
第５回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）②
第６回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）③
第７回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）④
第８回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）⑤
第９回　本学チャペル礼拝を想定した 10 分の説教（2 名）⑥・まとめ
第 10 回　教会での主日礼拝説教（テキストは任意）を想定した 20～30 分の説教（2 名）①
第 11 回　教会での主日礼拝説教を想定した 20～30 分の説教（2 名）②
第 12 回　教会での主日礼拝説教を想定した 20～30 分の説教（2 名）③
第 13 回　教会での主日礼拝説教を想定した 20～30 分の説教（2 名）④
第 14 回　教会での主日礼拝説教を想定した 20～30 分の説教（2 名）⑤
第 15 回　教会での主日礼拝説教を想定した 20～30 分の説教（2 名）⑥・まとめ

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
授業とはいえ、説教を語るのであるから、祈りつつ、周到な準備をすることが必要である。また、他の学生の説教のよい聴き手・批評者となるよう心がけること。

＜テキスト＞
聖書（新共同訳）

＜参考書・参考資料等＞
説教の準備に必要なもの（聖書原典および各種翻訳・註解書・黙想集・説教集など）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
説教に関し、総合的に評価する（70%）。また、批評力も評価する（30%）。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
なされた説教について、授業内で適宜コメントする。

実践神学研修課程		授業番号　ME121204
礼拝学演習	小泉　健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。

＜到達目標＞
教会や学校で礼拝を整え、奉仕者を指導し、結婚式、葬式等の諸式を執り行うことができるようになること。

＜授業の概要＞
主日礼拝の主要な要素や、主日礼拝以外の諸礼拝、結婚式、葬儀などについて、毎回テーマを定め、参加者の発表を通して学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　礼拝学的思考の特質について
第２回　聖書における礼拝
第３回　宗教改革の礼拝
第４回　礼拝式、祝祷、司式の役割
第５回　礼拝の祈祷
第６回　賛美、礼拝音楽、奏楽
第７回　献金・奉献、礼拝奉仕
第８回　洗礼式、幼児洗礼と幼児祝福
第９回　聖餐礼典
第１０回　結婚式・婚約式
第１１回　葬儀
第１２回　礼拝堂、礼拝堂の使用
第１３回　教会暦と聖書日課
第１４回　教会学校の礼拝、学校礼拝
第１５回　オンライン礼拝、オンライン聖餐

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
それぞれのテーマについて自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。

＜テキスト＞
必要に応じて教室で指示または配布する。

＜参考書・参考資料等＞
由木康『礼拝学概論』新教出版社、2011 年。
W. ナーゲル『キリスト教礼拝史』教文館、1998 年（オンデマンド）。
その他については第 1 回の授業時にテーマごとに紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表と授業への参加度によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①と③を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
発表の準備にあたっても、発表そのものに対しても、その都度、助言、指導を行う。

実践神学研修課程		授業番号　ME121205
牧会学演習	古屋　治雄	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）	

＜学位授与方針との関係＞
[DP2] 伝道者が現実に直面する諸課題・諸要求に、多様な協力関係の中で的確に対応することができる
[DP3] 教会やキリスト教学校等への赴任に向けた召命感が確立している

＜授業のテーマ＞
実践神学を牧師の働き全体像の中で捉え、牧師として身に付けるべき基本を学ぶ。

＜到達目標＞
牧会上の様々な場面で、ふさわしい対応ができるように基礎的な知識と実践力を持つことと、単に現実対応に留まらず、それらの対応を神学的に吟味する力をも身に付けることができるようになること。

＜授業の概要＞
牧師が担うべき教務、牧師が実践活動を行う場面を一つずつ取りあげ、参加者の発表を通して必要な知識と方法を身に付ける。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　牧師の全体像について
第２回　牧師の立つ法的基盤(教団教規、各個教会規則及び「伝統」)
第３回　礼拝に責任をもつ牧師(礼拝の組み立て及び説教)
第４回　牧師の面談、訪問(牧師主導の場合と要請を受ける場合)
第５回　信徒及び関係者の結婚に関しての牧師の役割(離婚、同性愛について)
第６回　信徒及び関係者の葬儀に関しての牧師の役割
第７回　病者への牧会、病床訪問
第８回　精神障害者の牧会
第９回　高齢者の牧会
第１０回　洗礼への導きと受洗準備、受洗後教育
第１１回　聖餐と牧会
第１２回　教会戒規をめぐって
第１３回　総会及び役員会での牧師の役割
第１４回　宗教法人上の教会管理に関して
第１５回　牧師の家庭とプライベートについて

＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。
授業で配布する資料や参考文献として挙げたものを読んでくること、またテーマについて自分なりの考えをまとめてくることなどを事前に指示する。

＜テキスト＞
必要に応じて事前に準備し、提示或いは配布する。

＜参考書・参考資料等＞
『E・トゥルナイゼン牧会学Ⅰ』、『牧会学Ⅱ』1961,1970(オンデマンド)　W・ウィリモン『牧師』(新教出版社 2007)　『牧師とは何か』(教団出版局 2013)　他は授業の中で紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表と授業への参加度によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①と③を重視する。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
学生の個別の求めに対して対応する。また、授業での発表や発言に対して、必要に応じてテーマを遡って反芻するなど、学生の理解を深める指導をする。